

聖徒の道 3 1975

私たちは救い主、イエス・キリス トの完き模範の中に、忍耐、親切、 愛、赦しのひな型を見ることができ る。主は私たちにこの模範に従うよ う命じておられる。陰険な悪の手は、 主を、この世におられる間中常につ け回していた。生まれたばかりの赤 ん坊のときには、夢に現われた天使 のみ告げに従ってエジプトに難を逃 れ、苦難に満ちたその生涯の終りに も、悪人どもが吐きかける汚れ切っ たつばに身をまかせながら、己れを 制して静かに威厳を保っておられた。 悪人どもの何という忌々しい行為! それに対して主の示された平静さは また何とすばらしいことであろう。 何という自制であろうか。

彼らはイエスを乱暴に引き回し、 小突き、殴打した。しかしイエスの 口から一言の怒りの言葉も聞かれな かった。この自己支配力のすばらか さ。彼らはイエスの顔や体に手をか けた。何という侮辱であろう! の苦しみたるやいかに……。それで も主は威嚇に屈せず、決然として類 られた。文字通り、主はほかのたむ も向けて御自分の訓戒に従われたと ができなかった。 弟子たちは主を見捨てて逃げ去ってしまった。そのような困難な立場に追い込まれたイエスは、群衆とその扇動者に立ち向かった。そしてただひとり、野蛮で罪深い攻撃者たち、悪口を浴びせる者たちのなすがままに、じっと耐えておられたのである。

イエスに向けられた言葉もまた耐え難いものである。罪に陥れようと権謀術数をめぐらし、非難には非難をもって対する態度、物、人、場所、状況を問わず、イエスが神聖なものとするものに対して浴びせられた不敬の言行は、耐え難いものであったに相違ない。人々は、やさしく何の罪もないイエスの母を姦淫を働いたとさげすんだが、イエスはいささかのたじろぎも見せられなかった。そ

イエスの 偉大な模範

スペンサー・W・キンボール

こには何のへつらい、否定、反駁も見られない。不正直で欲得ずくの証人たちが偽証を立てても、イエスは彼らを責めるそぶりすら示されなかった。彼らはイエスの言葉を曲解しわざと誤って解釈した。しかしイエスはあわてて取り乱す様子もなく、落ち着いておられた。「さげすむ者」のために祈れ、イエスは天父にそう教えられていたのであった。

イエスはむち打たれ、法による懲 罪を受けられた。茨の冠をかぶせら れるというひどい拷問をも受けられ た。またあざけり笑われ馬鹿者呼ば わりされた。御自分の民からあらゆ る侮辱を受けられたのである。「自 分のところにきたのに、自分の民は 彼を受け入れなかった」(ヨハネ1:11. 教義と聖約6:21参照)と言われた 通りである。イエスは十字架を背に カルバリの丘まで歩かされ、そこで 釘打たれ、苛酷な苦しみを受けられ た。そして最後に、十字架の下にい るローマの兵士たちやイエスを非難 した者たちを見おろしてこの不滅の 言葉を残されたのである。「父よ、 彼らをおゆるしください。彼らは何 をしているのか、わからずにいるの です。」(ルカ23:34)



末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール N・エルドン・タナー マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソンマーク・E・ピーターセンデルバート・L・ステイプレーリグランド・リチャーズヒュー・B・ブラウンハワード・W・ハンターゴードン・B・ヒンクレートーマス・S・モンソンボイド・K・パッカーマービン・J・アシュトンブルース・R・マッコンキーL・トム・ペリー

諮問委員会

J・トーマス・ファイアンズ (内務伝達部長) ジョン・E・カー (配送翻訳部長) ドイル・L・グリーン (教会誌編集主幹) ダニエル・H・ラドロウ (教会教課企画調整主任)

統一誌編集主幹

ラリー・ヒラー

日本語コーディネーター

八木沼 修 一

もくじ

贖いの犠牲――近代の予言者の証	98
「殺されちゃうわ!」	102
キリストを知ることとはジョージ・W・ペイス…	105
扶助協会中央管理会長ベル・S・スパッフォード姉妹との対話	111
両親および若者の指導者としてあなたは 今日の音楽について何を知るべきか	114
「お父さん、お話してくれる?」ゲリー・」・コールマン…	116
てんをむすんでみましょう	117
「小さいわらべに導かれ」 (イザヤ11: 6)	118
イエスさまのおはなし	119
新しいサッカーボール ·······レオ・D・ホール ···	123
ダビデとゴリアテスペンサー・W・キンボール…	126
罪を犯した人に対する私たちの責任N・エルドン・タナー…	131
高 潔マリオン・G・ロムニー…	134
山の上のあかりH・バーク・ピーターソン	138
ローカルニュース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	142

聖徒の道3月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 東京都港区南麻布5-8-10

配 送 東京ディストリビューション・ センター 東京都港区南麻布 5 -10-25

定 価 年間予約1,700円 1 部 150円 海外予約2,200円

INTERNATIONAL MAGAZINES Printed in Japan

贖いの犠牲――近代の予言者の証

「キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。……」(Iペテロ3:18)贖罪の事実は福音の核心であり、それはアダムから現代まで説かれてきた。ここでは、当神権時代のジョセフスミスからスペンサー・W・キンボールに至る代々の予言者が語った、救い主の犠牲に関する教えを取り上げる。

ジョセフ・スミス

人は罪を犯し、その結果仲保者なしには創造主との直接の交わりを断たれてしまったが、主の偉大な、栄光に満ちた贖いの計画は、その以前より備えられていたのだろうと思う。犠牲は用意され、神のみこころと目的にかなって贖いは計画された。文字通り神の御子を通して。こうして人は御子を通して神を受け入れるための道を待ち望むことができるようになった。すなわち、人が贖いを見出し得るのは、イエスの功徳をおいてほかにないということを教えられたのである。なぜなら、「あなたは……ちりに帰る」と言われているからである。悔改めは毎日もてあそぶような事柄ではない。毎日罪を犯し、毎日悔い改めることは、神の目によしとされない。……正当な執り成しがない限り、聖書の中に何ら救いはない。そこでイエスは正当な執り成し者となられたのである。……

Teachings of the Prophet Joseph Smith

「予言者ジョセフ・スミスの教え」 P.57, 58, 148, 319

ブリガム・ヤング

私たちの始祖は園において与えられた律法に違背し、その目は開かれた。これが負債となった。その負債はどんなものだろうか。それを償うのは何だろうか。質問したい。この負債を償うのに、神の犠牲で不足するところがあるだろうか。ない。不足するところはない。……

子らは神に負債を負い、御父は償いを要求される。御父は罪とがの中にある地上の子らに言われる。あなたがたにはこの負債を償うことはできない。私が犠牲を用意した。私はこの負債を償うべく、私の生みし独り子を遣わそうと。私たちは、なぜ独り子が命を犠牲にしなければならないかを理解しているだろうか。……神がこの負債を償う御子を備えられない限り、負債は弁済されない。私たちが贖われて御父と長兄のみ前に帰り、聖なる天使や日の栄えの住人と共に住む手段を、世のあらゆる知恵をもって発明できるだろうか。いや、できない。この神聖な負債を償う犠牲を用意し、その犠牲を払うことは、現在、過去、将来の地の住民の知恵と能力を越えたものである。しかし神にはそれができた。その御子が犠牲を払った。そして私たちは今やそれぞれに真理を受け入れ、神の王国に救われることができるのである。

Journal of Discourses 「説教集」第14巻P.71,72

ジョン・テイラー

贖罪は限りないものでなければならない(IIニーファイ 9章の中で)と言われている。なぜ限りない贖罪が必要だったのだろうか。川は源よりも高い所へは流れていかないといった簡単な理由からである。人は肉体を受けて地に属するものとなり、律法を破ることで御父との交わりを断たれ、死にさらされることとなった。この状態にあって、この世の人生は短く、自分の力では自分を益する望みも御父のみ前に帰る望みも何ら持つことができないため、その堕ちた低い状態から己れを引き上げるには、何かよりまさった力が必要とされた。そのよりすぐれた力が神の御子であった。彼は人のように御父の律法を犯すことなく、御父の栄光と力と権威と支配を所有して、御父とひとつですらあった。

The Mediation and Atonement 「とりなしと贖罪」P.142, 143

ウイルフォード・ウッドラフ

己れの罪を悔い改めよと呼ばわるとき、その叫びは個人の 罪をさすのであって、アダムの咎ではない。原罪と言われるも のは、人の行動にいっさいかかわりなくキリストの死によって 贖われ、人個人の罪もまた、神の救いの計画を耳にしたと きの従順を条件に、その同じ贖罪によって贖われた。

Millennial Star 「ミレニアル・スター」第51巻 P.659

ロレンゾ・スノー

こうして人生を送るとき、私たちは、その幸福な地へた どりついた暁には神の息子、娘と称され、日の栄えの王国 の富と栄光を所有できると確信し、かの霊界をはるかに待 ち設けるのである。

使徒パウロはかの時代に、神のかたちでありながら神と等しくあろうと思われなかったキリスト・イエスと同じ思いを、あなたがたの間でも持ちなさいと、聖徒たちに教えた。使徒ヨハネは同じ事柄について、「彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている」、「彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあらわれるように、自らをきよくする」と言っている。

人が今あるごとく、神もかつてあった。ベツレヘムのみどり子も幼児から少年、青年と成長して神となり、そしてそれこそは「キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の恩典」なのである。

私たちは霊界で神より生まれた神の子供である。そこで 私たちは子供として神の性質にあずかり、今はその両親に 似るところを持つ。試練も苦難も私たちに経験を与え、神 に似ることの本質を私たちの中に確立してくれる。

Journal of Discourses 「説教集」第26巻 P.368

ジョセフ・F・スミス

自然の死、すなわち肉体の死より、また「霊の死」である第一の死よりの贖いが存在する。そしてそれを可能ならしめるためには、「生みし独り子」のみ名を信じる信仰と、聖なる天使が宣言した福音の儀式に対する悔改めと従順が必須となる。というのは人は「信じれば」従わなければならないからである。

もし人が悔い改めず、また福音の儀式によってキリストのみもとに来ることをしないならば、それの霊的堕落から贖われることができず、永遠にサタンの意志に縛られてしまう。それこそ全人類をもその運命に置いた私たちの始祖の堕落であり、人は「生みし独り子」のみ名を信じて神の律法に従わない限り、だれも贖われることのない霊の暗闇、霊の死に支配されたままでいなければならない。キリストは全人類にとって偉大な模範である。キリストが人類の贖い主となるよう予任されていたように、人もキリストに似た者となるよう予定されていると私は信じている。

Journal of Discourses 「説教集」第23巻 P. 169, 170, 172







私たちは、臨終の瀬戸際にただ信仰を告白することで人 が救われるとは信じていない。銀行で働いていた青年時代 に、そのような信仰の愚かしさを突いた風刺漫画を見たこ とがある。ある娯楽雑誌に書いてあったものだった。悪党 らしき風体の男が部屋に入ってきて、金勘定をしていた男 を刺して金を奪った。次の絵は牢獄の中で、牧師が「イエ ス・キリストを信ぜよ。さらば救われん」と言い、罪人は 「こりゃ、おやすいこった。信じるぜ」と考えた。そのあ との絵では裁判で有罪を宣告され、次の絵は絞首台へ行く ところで女たちが涙に暮れながら「魂はイエスのみもとへ」 と、足もとに花をまいていた。次は首に繩をかけられてぶ ら下がっている絵で、その次は天使たちに守られ昇天して いる絵だった。そして最後の絵では、刺されて金を奪われ た優しい善良な男が、地獄の底で次から次へ炎の中を転々と していた。彼は信仰を告白する時間がなかったのだと叫ん でいた。刺殺されたからである。

「われは、福音の第一原則と儀式とは第1、主イエス・キリストを信ずる信仰……なることを信ず。」「主イエス・キリストを信ずる信仰」と言うとき、私たちがイエス・キリストを絶対的に信じ、彼が神の御子であって、人類の贖い主として十字架で死ぬという神より与えられた使命を帯びてこの地上に来られた御方であると信じていることを、はっきりと理解してもらいたい。私たちはイエス・キリストが単に「偉大な道徳教師」だったのではなく、私たちの贖い主であると信じているのである。

Church News 「チャーチニューズ」1938年9月3日P.7

ジョージ・アルバート・スミス

私たちはアダムの罪に対して責任はなく、自分自身の罪に対して責任を負うのだと知らされている。イエス・キリストの贖罪は私たちから父祖アダムの罪を贖う責任をぬぐい去り、私たちが地上で生活をし、やがて自分に与えられた機会を有効に利用したならば、しかるべきときが来て死より復活するための用意が備わるようにしたのである。

「大会報告」1926年10月P.102

時の絶頂に人類の救い主が来られた。来臨以前の人類が 降臨を待ち望み、来臨以降の人類がその生涯に思いをはせ る御方が。地上の歴史の絶頂に人の子は来て、世の交わす 約束とは異なり、自分の命を救う者はその命を失うと、永 遠の真理を宣言された。

主はその束の間の地上での生活に、この真理を何と完璧 に例証されたことか。土地を持たず、家を持たず、まくら する所さえなかったというのに。……(マタイ8:20参照)

その生活は無私の奉仕の生活であった。めしいや耳しい の体の欠陥であれ、罪に捕らわれた女の道徳的欠陥であれ、 そのため不自由な生活をしている者が自由な生活ができる ようにと常に助けられた。その使命は正に彼らに命を与え ることであった。

さて、……それをさらに延長して、救い主の犠牲に、流血の死に、思いをはせることはできないだろうか。人の命はこの地が与えるもの、単なる人の住む宿にすぎない肉体には依存しない。霊に依存するのである。まことの人は、利己心と肉欲を超越し、命と幸福に、永遠である信仰、徳行、知識、節制、敬神、友愛、仁愛を求める。

ゆえにキリストは、その生涯と死において犠牲の律法を成就されたばかりか、地上の生活から永遠の生命に進歩し高められるために人が知らねばならないあらゆる状態を、すべて達せられたのである。「そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう。」(ヨハネ12:32)

私はこの中に、人類の堕落の贖いという一般に言われている理由に加えて、全くおぼろげながら、キリストが血を流されたことのもうひとつの理由を見るように思う。キリストが隣人のために生き、死んでは他のあらゆるものに打ち勝ち、死と地獄と悪魔の力に勝ち、墓からよみがえって永遠の存在、私たちの導き手、救い主、神となられたことを知ると、実は先にあげた後者の理由よりも私の胸は感激に躍るのである。

Treasures of Life 「人生の宝」 P.277, 278

ジョセフ・フィールディング・スミス

救いの計画、すなわちイエス・キリストの福音として知られている諸律法は、地の礎が据えられる以前に天で採択された。……(アダムが)禁断の実を食べて堕ち、結局は子孫によかれと地に苦難と死とをもたらしたことも、この偉大な計画の一部であった。……

堕落は死を生じた。しかしそれは、願わしい状態ではない。私たちは神のみ前から追放されるのを望まず、永遠に 死ぬべき状態に服するのを望まず、また、死んで体をちり に帰し、その体内に宿る霊がサタンの支配下に置かれ、そ の下に従属するのを望まない。

イエス・キリストの贖罪にはふたつの面がある。贖罪のゆえに、全人類は肉体の死と墓とから贖われ、不死不滅の体に復活する。そしてまた、福音の律法と儀式に従順であれば、人はキリストの血によって己れの罪の赦しを受け、永遠の生命である神の王国の昇栄を受け継ぐのである。

私たちは贖い(atonement)という言葉が神と「ひとつになる」(atーoneーment)という意味であることをよく耳にする。しかしそれはごく一部でしかない。実際、人類は贖いを受けているにもかかわらず、その大半は神とひとつになっていない。「命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない」のである。(マタイ7:14) もしもそれが、再びもとにたち返り、神の戒めを守って神の息子、娘となる人々に約束された完全な命を受けることだとすれば、私たちは完全に神と「ひとつ」になっているわけではない。

Doctrines of Salvation「救いの教義」第1巻P.121-23, 125

ハロルド・B・リー

死すべき人間の理解を越えて、神はこのように述べつつ人に絶大の価値を置かれた。「汝ら、人の値は神の前に大いなることと憶えよ。見よ、そは汝らの贖い主なる主は肉体にて死を受けたればなり。これを以て彼はすべての人々の悔い改めて彼に来らんために、すべての人々の苦を受けたり。彼はすべての人々に悔い改むるならば彼に連れ行かんために、死人の中より再びよみがえれり。而して、悔い

改むる人を見て彼の悦びは如何に大いなるか。」(教義と聖約18:10-13)

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世(老若男女)を愛して下さ」(ヨハネ3:16)り, 全人類が天の王国にたち返るための道を開いて下さった。人類の贖罪の計画は地が造られる以前に天上で立てられ、「ほふられた小羊」(黙示13:8)となって贖罪をなすべき御方のことも知らされた。

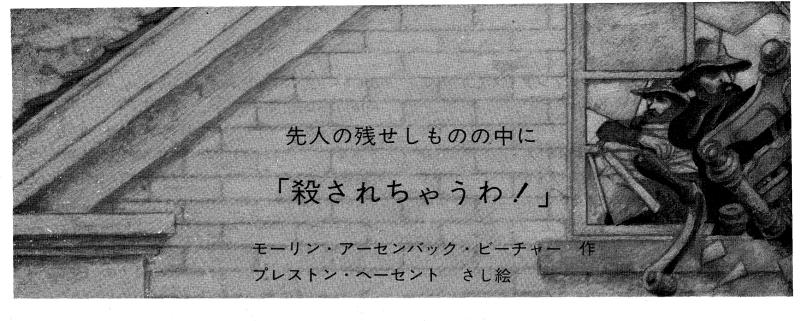
救い主が苦しみの見返りに私たちに期待しておられるただひとつのことは、自分の罪を悔い改めて主の戒めを守ることである。その苦しみは非常に大きく、神の子である救い主が「痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながらを苦しめ、すなわちこの苦きさかずきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲し」(教義と聖約19:18)たほどであったが、……しかし主は……地上での生涯の終りに際して、人類が永遠の生命を得、人を救う神の計画、主の福音を受け入れて永遠に主の息子、娘となるためならば、人類のために命を捧げ、甘んじて死を受けたことをよしとされているのである。

Youth and the Church 「若人と教会」(1945) P.120, 121

スペンサー・W・キンボール

キリストの十字架の死より、私たちの大概の罪は永遠の罪を免除されることとなった。キリストは、悔い改めてみもとに行く者が罪を赦され、罰から解放されると知って、全人類の罪に対する罰を一身に負われた。……主イエス・キリストの大いなる犠牲と、私たちのために耐え忍んだその痛苦を思うと、能力の限りを尽くして感謝しなければ私たちは恩知らずになるであろう。キリストは私たちのために苦しみ、死なれた。もしも私たちが悔い改めないならば、私たちのための主の苦痛も苦悩も無駄になる。……罪の赦しは、神が与えられたうちで最も栄えある原則のひとつである。また、悔改めが神聖な原則であるのと全く同じに、赦しも神聖である。もしこの原則がなかったならば、悔改めを呼ばわる根拠はないであろう。だがこの原則のゆえに、万人を神は招くのである。来たれ、罪を悔い改め、赦しを得よと。

The Miracle of Forgiveness「赦しの奇跡」P. 132, 145, 338



ミズーリ州インデペンデンスで迫害 が始まったのは、メアリー・エリザベ ス・ロリンズが15、その妹のキャロラ インが13のときだった。しかしその年 の初めは平和そのもので、街もそこが 新しいシオンになるだろうということ を信じた改宗者たちでふくれはじめて いた。彼女たちがインデペンデンスに 着いた頃、多くの人々は窮乏していた が、伯父のアルジャノン・ギルバート の店は景気がよかった。ジャクソン郡 一帯に次々と家が建てられ、農地が切 り開かれていた。それどころか、聖徒 たちは新聞さえ発行していた。新聞発 行に尽力した当の人物はウイリアム・ W・フェルプスであった。彼は自分の 家の二階に編集室と印刷所を設け、 「イブニング・アンド・モーニング・ス ター」という新聞を定期的にミズーリ および全教会の聖徒たちに向けて発行 したのであった。そしてある日のこと、 新たな騒ぎがもち上がった。その騒ぎ のもとは、フェルプス兄弟の事務所か ら世界に向けて発行されることになっ ていたジョセフ・スミスの啓示であった。

メアリー・エリザベスは新しい「戒めの書」について聞いていたし、すでに印刷されたものが束になって積まれているのも見ていた。残りを印刷すれば、あとは裁断され、製本されるだけになっていたのである。彼女は、オリバー・カウドリを始め幾人かの兄弟たちが、書き下された諸々の啓示につい

て話すのを聞いたことがあった。彼らが互いに言葉を交わすその部屋は何と敬虔な空気に満ちていたことか。そこは、まるでみたまに溢れているかのようであった。彼らはその聖なる書物について、異言で語り合っていたのであった。

しかし、1833年7月のことであった。 モルモンたちに混じって住んでいた「旧 開拓民」が、町のモルモン人口の増す のに腹を立て始めたのである。

モルモンの改宗者の団結と、その新しい奇妙な宗教に業をにやしたミズーリの人々は、その年の初めから聖徒たちをジャクソン郡から追い出そうと画策していた。そして7月、フェルプス兄弟がスター紙に、ある社説を載せると、旧開拓民らはその意味をとり違えて激怒したのであった。

た。しかし、旧市民らはそれも聞き入れなかった。結局、聖徒たちに猶予された時間は15分であった。が15分経たぬうちに、暴徒らは聖徒たちが相談している所へ押しかけ、フェルプス兄弟の印刷所へ集中攻撃を加えたのである。

そして「モルモンの戒律もおさらばだ」と叫ぶと、その中のひとりが通りの砂利の上に印刷されたページの山を、どしんと投げ落とした。メアリー・エリザベスはその啓示の書を救わなければ、と思った。「殺されちゃうわ!」キャロラインは言った。しかしメアリー・エリザベスの決意の堅さに心動かされずにはいられなかった。

暴徒たちは通りに背を向け、家の裏 の破風をてこでこじあけ始めた。と少 女たちは隠れていた所から跳び出し、



腕いっぱいに印刷されたページをかかえると、一目さんに駆け出した。何人かの暴徒がふたりを見つけて叫んだ。「待て!」しかしふたりは脚の力の続く限り走った。心臓は恐怖で暴徒が似なったちの後を追っていた。法とのなどでよっても自動を発をしまった。側へ出た。前はトウモランのはいかになった。ないないないない。

たちの後を追っていた。 できた。彼女たちの後を追ってきた。彼女たちによってすき間ではない。 前はいるにない。 前はいるにない。 前はいるにない。 できない。 といいる。 これにいる。 これにん

 モロコシ畑の上に見せていた。メアリー・エリザベスはその木によじ登ってあたりを見回し、暴徒たちのいない方はどっちかを見定めた。

しかし、ふたりは、特にメアリー・ エリザベスは少し残念な気もしかかなける。である。彼女は、自分げなかったのである。彼女は、自分げなかったのである。一枚残が取り上さえ自がでいる。ですがない。彼女は待ちやであれている。ではながでない。では、ではないがのらいである。してでである。してでである。してでである。「戒めの書」が残りの啓示がないの。」のの書が残りの啓示が残りの啓示が残りのである。「で、ないのである。」のといるである。「で、ないのである。」のといるである。「で、ないのである。」のといるである。「で、ないのである。」が残りの啓示が残りの啓示が残りの啓示が残りのである。「で、ないのである。」にないない。 べて含めて再出版された。そして書名も「教義と聖約」と改まっていた。聖 なる啓示は失われなかった。そして少 女の勇気は、その聖なる啓示と共に語 り伝えられているのである。

注:この物語の出典は以下の通りである。ユタ州ソルトレークシティー教会歴史記録部図書館蔵「メアリー・E・ライトナー自伝」B・H・ロバーツ著「ミズーリにおける迫害」P.82-94、ピーター・クラウリー著「ニューヨーク、オハイオ、ミズーリにおける末日聖徒イエス・キリスト教会関係書誌」、BYU紀要第12巻(1972年発行P.480-486以上すべて英文)。

歴史記録部の地下室に注意深く保存されていた資料は、掌に入るほどの小さな冊子であった。表紙には、いみじくも「戒めの書――キリストの教会の統治のために」と書かれていた。しかしその本は160ページで突然途切れており、その後がなかった。それが現在の教義と聖約の前身、すなわち、メアリー・エリザベスとその妹キャロインの勇気がなければこの世から失われていたであろう聖なる啓示の書だったのである。その書にはウィルフォード・ウッドラフの名が記されていた。1854年7月19日、彼が教会歴史事務局に寄贈したものである。



キリストを 知ることとは

ジョージ・W・ペイス

私は19歳の頃モルモン経に非常な興味をおぼえた。そこでスポンの後ろのポケットにいつも1冊入れておいて、事あるごとに読んだものである。

「キリストを知ることとは」というテーマは、それを取り上げて書こうと考えただけで畏れを憶えるものである。 事実、私がキリストが生きてましますことを知らなくとも、 キリストは無限の能力を持ちたもう神であり驚嘆すべき方 法を用いて私たちの生活を変えることのできる御方である ということには、疑問の余地がない。

教会には、様々なプログラムがあり、私たちを善へと向かわせるように導くすばらしい道が備えられている。私は、現在の私を形造ってくれた経験と訓練に深く感謝する。そのおかげで私は、教会の目的の何たるかが次第に理解できるようになった。あらゆる儀式や原則の中に存在するたったひとつの目的、それは、あなたがたを、そして私をイエス・キリストに紹介し、ある深遠な方法で結びつけてくれるということである。

教会には足しげく通った私だが、少年の頃は、みたまにかかわる事柄を経験するほど強い信仰は持ち合わせていなかった。にもかかわらず、教会は真実に違いないといった気持は持つことができた。そして、そうあって欲しいとどんなに望んだことであろうか。だがそうした望みにもかかわらず、教会が真実であることを心から理解してはいなかった。

19歳の頃のことである。私はモルモン経をどうしても読みたい心境にかられた。真実だという確証を得たかったのである。その年の夏、私はズボンの後ろのポケットにモルモン経をしのばせ、かんがい水路の水分けのあい間あい間に夢中になって読んだ。その結果、祈りは熱意の込もった

ものとなり、私は日々、ともするとそれこそ一日中、モルモン経について明確な証が得られるようにと願っていた。

熱心な読書がそれから数週間続いた。そして私は、まるで今までとは違った新しい世界にいる自分を見出したのである。みたまの導きを感じた私は狂喜した。そして、人生には偉大な目的があり、そのためには備えなければならないことがあることを感得したのであった。

私はあの日のことが忘れられない。かんがい水路にかけられた小さな橋の上に腰をおろし、ゴム長靴をはいた足をぶらぶらさせながら川の水につけて涼を取っていたときのことだった。今まで読んだところが真実であるという穏やかな確信が私の体を貫いたのである。ふと空を見上げた私は、モルモン経の中の言葉の奥にある真意を感じたのだ。みたまは私に、予言者の記録が、すなわち私が読んだものが真実であると証してくれた。ニーファイは確かに主と会い、主と言葉を交わした。そして主の慈悲と愛を味わったのである。そしてニーファイの人生は、救い主の力を受けて、変化を遂げたのであった。私はそう感じた。しかし真の喜びは、私の体全体からわき上がってくる燃えるような確信から来るものだった。私も主の存在を、偉大な福音の真理を知ることができるのだ、そしてニーファイと同じように、救い主の力を得て霊的に強められるのだ、私にはそう思えた

何と感動的な思いであろうか。みたまを通じて過去に神を知っていた人々がいたことを確信でき、またその同じみたまによって確かに主を知ることができるのだ。

しかしもちろん、私たちの心をさらに変えてくれるのは、 あなたがたも私も同じように、自分自身の力ではっきりと 神の存在を確信できるという事実である。

それから数ヵ月して、私は伝道本部で主の選ばれた僕た ちからすばらしい話を聞く機会を得た。中でもあるひとり の人は、主についてどのように理解し、またどのような思いを抱いているかを率直に話してくれたが、それを聞いた私は、主の贖いということに関して正に目からうろこが落ちる思いであった。その日再びみたまが火のように私の心を打ち、私もまた主を知ることができるのだと証してくれたのである。私が前から切望していた主とのかの結びつきを再び得たいと願うようになったのは、そのときであった。

結婚初年の春のある日、私は総大会の土曜日の午前の部の実況をラジオで聞こうと、畑から戻った。私の家の居間は狭く、妻と一緒に放送を聞くのに、私はアイロン台のそばに小さくなって腰をおろさねばならなかった。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長の話だった。そして彼が救い主について証をしたとき、私は再び、クラーク副管長が救いについて、完全にそして直接に知っているという力強い確信を得たのである。

これらの経験は、ある意味で、私が学んだもうひとつの 大切な概念を示すものである。すなわち、神権や儀式、福 音の原則が実在の御方である生ける贖い主に表わされ、体 現されかつ表象されるのを見ることができるとき、私にと ってそれらはさらに意味の深いものになるということであ る。.

神権、福音、そして教会の最も大切な目的は、あなたがたや私を救い主に紹介することである。キリストに対して力強い信仰を持つためには、キリストとはどのような御方かを知り、キリストとの結びつきをより密接なものとしなければならない。もし私たちが救い主をもっとよく知り、救い主との結びつきを強めるよう望みながら、教会の活動や聖典の研究、祈りに焦点をあてていくならば、主からの日々の導きをさらによく受けることができるようになるだろう。

教会としてあるいは会員としての私たちの使命の中に、世の光になるということがある。それは具体的にはどういう意味なのだろうか。救い主はこう語っておられる。「されば、汝らの光が輝きて世の中を照らすために、汝らの光を高くかかける。汝らが高くかかぐる光とは、すなわちわれなり。」(IIIニーファイ18:24)青少年プログラムやすばらしい福祉プログラム、神殿事業、また宣教師の働きといったものが映し出す光が、すべて私たちの主であり救い主である。イエス・キリストのもとに集約されるとは、何とすばらしいチャレンジであろうか。私たちはこのチャレンジを全うして初めて、「神のかたちに男と女とを創造する」というプログラムを実際に進行させることができるのである。

これこそ次の如く語ったパウロの真意ではなかったか。「なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと決心したからである。(Iコリント2:2)キリストが中心の存在であるとするジョセフ・スミスの証

は常に私の心を感動で満たしてくれた。特に次にあげる証は意味深長である。「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。」(教義と聖約76:22,23)

私は救い主についての予言者の証に接すると胸の高鳴りを覚える。そして彼らの証の中に、私たちに課せられたひとつのチャレンジを見るのである。それは人が私たちの生活を通してキリストの明確で力強いメッセージに接し、その教え、儀式の執行、また福音の実生活への応用について全身全霊をもって主に従いたいと望むようになるということである。

この救い主を知るということについて、ブリガム・ヤングは次のように美しく述べている。

「天父とその御子イエス・キリストが私たちに求めておられるあらゆる事柄の中で最も重要なのは、キリストを信じ、キリストへの信仰を告白し、キリストを研究し、キリストから決して離れず、キリストを友とすることである。長子であり隊長である救い主と意思を通じ合えるような生活をしようではないか。」(Journal of Discourses「説教集」第8巻、P.339)

教会は、私たちをキリストに向かわせるために神がお作りになった組織である。私たちは教会の助けを得て、救い主との間に密接なつながりを保つようになる。救い主が実在するという証だけでは不十分である。私たちは、救い主について知らなければならない。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ17:3)

次に6つのポイントを挙げたい。私は、この6つのポイントこそ、救い主を知る上で最も大切な要素であると信じている。

1. 主を知るということは、文字通り主が天父の御子であることを知ることである。イエス・キリストが聖典にあるように「神の生みたまいし独り子」であるという真理を受け入れない人が多い。

「……私たちはまず第一に、全能の父なる神が御子イエス・キリストの父であるという平易な事実に到達しなければならない。そして母親が、死すべき人間を知ることのなかった処女マリヤであるということを。神はマリヤを通して御子イエス・キリストをもうけられた。そして御子は御父ゆずりの能力と知性をもってこの世に生まれたもうた。」(ジョセフ・F・スミス、Messages of the First Presidency 「大管長会メッセージ」第4巻、P.29,30)永遠の御父である神は、文字通りイエス・キリストの父なのである。

大学でインスティテュートの指導者をしていたときに、 私はイエス・キリストを神の御子として受け入れることが いかに大切かということについて、おもしろい経験をした。 キリスト教界には救い主を神の御子と認め、誠実にその真 理に従っているすばらしい指導者も大勢いるが、御子と認 めない人もいる。

大学の宗教強調週間のとき、ひとりの全国でも指折りの 牧師が講師として招かれた。講演は実にすばらしいもので あった。聖典の知識は豊富で、救い主についてもよく理解 しているように思われた。彼の最後の説教が終わると、興 味ある者が集まって質疑応答の会が開かれた。1週間通し て行なわれたいろいろな講演に対して異議を述べる会であ る。招待されたその牧師も含め、地元の牧師数人、それに 私がキリスト教を擁護する側として質問を受けることとな った。

「ジョージ、きょうはすごい会になるぞ。」 階段を降りて、自分と主張を異にするグループの代表者がタバコの煙のもうもうと立ち込める中で声高に話しているのを目のあたりにしたとき、私は自分自身にそう言いきかせていた。会師にとき、私は自分自身にそう言いがいた。当の牧師たちがキリスト教を擁護することにはさして関心を払わざれどもいると問題を持っていることに対して自分がどれが、聖書の解釈上争点となっていることに対して自分がどればいるの解釈となったのは、また人に対して自分がどればいるのである。事実彼らの多くはは、大教に対しているのである。事実彼らの多くはは、大教に対して、その中でも特にイエスが文字通り神のスト教に対して、その中でも特にイエスが文字通りは、その中でも特にイエスが文字通りは、大変を攻撃する学生たちと大して変わりなかった。幾分であるという概念に対して、状間の気持もあったのだろう。私の頭の中に「沈黙は批判を受けず」という金言がちらつき始めた。

しかし、事態はそれ以上に深刻だった。私は意を決して立ち上がると、マイクロホンを右に左に持ち替えながら、私の主に対する思いを学生たちに向かってとうとうと述べた。その間10分ないし15分程だったろうか。この世には絶対的な真理があること、男女を問わず道徳的に清くなければならないこと、そして私たちが信頼を寄せることのできる神の実在を認識することがいかに大切かについて話した。そしてイエス・キリストが生きておられ、文字通り神の御子であり、再びこの地上に来られること、そのときに私たちは自らの生活について申し開きをしなければならないことを証した。

すばらしい経験だった。そのときほど主のみたまのほとばしりを感じたことは、かつてなかった。と言うのも、彼らはそのような強い証を述べるには全くうってつけのグループだったからである。私は背教について話し、彼らが話題にしているキリスト教は、キリストがこの地上に置かれたものではないことを説明した。みたまの力があまりにも強烈で、話す言葉もかなり大胆だったので、私はかの「アビナダイ」のように、今にも足もとから私を火刑に処する火の手が立ち昇って来るのではないかと思えたほどだった。

そして最後に、神が実に生きてましまし、イエスがキリストであり、文字通り神の御子であることを証して話を終えた。

私は一瞬目を疑った。学生たちの中から、せきを切ったように拍手かっさいが起こったのである。 2 時間もの間キリスト教を口ぎたなくののしっていた連中が、今あたかも「神よ感謝します。あなたが生きてましますことを知っている人がいます」とでも言わんばかりに賞賛の態度を示してくれたのである。

私が証を述べ、救い主の神性について強調すると、あるひとりの学生が例の牧師に向かってこう尋ねた。「あなたはイエス・キリストが神であることを信じますか。」

一瞬あたりが水を打ったように静かになった。この著名な牧師はしばらく考え込んでいたが、薄笑いを浮かべながら顔を上げるとこう言った。「どちらかと言えば神だとは信じたくないですね。信じるとなると、彼(作者)に優位を占められることになりますからね。」彼はさらに続けた。「これから20年の内にキリストよりも立派な人生を送る人が出現しないとはだれにも言えないでしょう。もし出現したら私はその人を私の贖い主としてあがめますよ。

復活されたキリストがジョセフに語られた言葉に、もはや異論をさしはさむ余地はない。世の教会は「唇もてわれに近づけど、その心はわれに遠ざかれり。彼らは人の誠命を教えとして教え神を敬う様をすれども神の力を否む」のである。(ジョセフ・スミス2:19)

2. 主を知るということは、主を通して祈ることができ、また祈りの中で人が互いに言葉を交わすように天父と話ができるということを知ることである。私はある特別な討論会を前にして準備をしていたとき、主を確かに知るということにどういう意味があるのか知ろうとして祈ったことがあった。そのときに私の心に浮かんだ思いに私は強烈な衝撃をおぼえた。それはひとつの質問であった。「この世の中であなたが本当に知っている人はだれだろうか。」

私は父のことならよく知っていると思った。そこで、父のことをよく知るようになったのはどういうことからだろうかと、いろいろ考えてみた。そう、子供の頃農家で育った私は、四六時中父のそばにいていろいろ話をしたものだ。中にはまるで子供じみた話題もあったかも知れない。でも父はいつもよく話を聞いてくれたし、もっともっと話すようにと励ましてくれたりもした。時が経つにつれて私たちの話の内容は次第により深い大切な事柄へと発展しているため、父と話すのが毎日の生活で大きな喜びとなり、このままずっと話していられたらよいのに、と何度考えたか知れない。事実、父と話ができるとなれば、たとえ数分でもほかのことをやめてそうしたほどである。

プロボで開かれたインスティテュートの大会の後で、私はアイダホに住む両親を訪ねた。そして帰る間際に父と一緒に家畜飼育場へ行き、いろいろ心配事を打ち明けた。そ

んな私に、父は実にすばらしい霊的な経験を話してくれた。 おかげで私は大いに安らぎを得た。別れの抱擁を交わした 後、私は車をコロラドへ向けて走らせた。そして父がその ようなすばらしい尊い経験を私に話してくれたのは、とに もかくにも私と父との関係、すなわち長年の間親しい語ら いを続けてきたという基礎があったからだということを知 ったとき、私は大きな感動をおぼえた。

それからちょうど1週間後、ワイオミングの田舎町へひとりで車を走らせていたときのことだった。私は声を上げて天父に祈った。そのとき、わずかな時間ではあったが、私の心はみたまに満たされ、父との過ぎし日のなつかしい経験の数々が、あたかも今現実にその場にいるが如く、一つ一つ思い出されてくるのだった。私は父の愛を感じた。実際に父が、私の傍らに寄り添っているようだった。喜びのあまり、止めどもなくあふれ出る涙をどうすることもできなかった。父と私、何という尊い絆で結ばれていることだろう。

次の朝、ある親切な聖徒の家で朝食の準備をしていたとき、電話のベルが鳴った。前の晩、父が息を引き取ったということだった。前の晩のあの祈りのことを思い起こすと、父と私との間にそのような強い絆が生まれたのは、とりもなおさず父とのすばらしい経験や語らいがあったからだと思えてならない。この原則は、主と私たちとの間にもあてはまるのではないだろうか。私たちは天父に祈りを捧げれば捧げるほど、福音の原則を生活の中に取り入れ、天父との関係をより密接に保つことができるのである。恐らく私たちと父との関係は、私たちと天父との関係を象徴的に示すものなのだろう。

3. 主を知るということは、主が私たち一人一人のために苦しまれたということを知ることである。予言者がなぜへりくだりたる心と悔いる精神ということについて繰返し語るのか、不思議に思ったことはないだろうか。ニーファイは、救い主が「真にへりくだった心と悔いる精神」を持つ者にのみ律法の要求する所に応じられる(正義を満たされる)ことを証した。(IIニーファイ2:7)人はいかにして罪の故に「へりくだった心」を持つようになるのだろうか。その罪から解放するために救い主がして下さった何を知ればその心が持てるのだろうか。

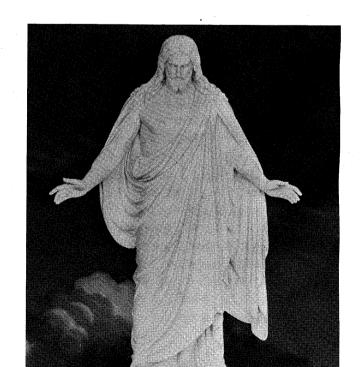
第一の原則が「主イエス・キリストを信ずる信仰」と言うとき、その中のひとつの要素として主の贖いの犠牲に対して確固たる信仰を抱くということがあげられることは確かである。(教義と聖約76:41参照)私たちが主の教会の会員であることの本当の意味を悟るのは、ほとんどの場合、ゲッセマネとゴルゴタでどのようなことが起きたのか、また私たちのために苦難にあわれたときの救い主の苦悶と悲しみがいかなるものであったかということを、聖霊の力を通して知るときであろう。私たちはこの経験を通してこそ不完全で罪深い自己に気づいて心がへりくだり、主のあふ

れんばかりの愛を感じるのではないだろうか。

キリストの贖いは、この地上の歴史の核心をなすものである。この偉業をなし遂げたもうた主を理解すること以外に、罪を悔い改め、神の力を得て、シオン建設のために全身全霊を捧げることを可能ならしめるものはないのである。

ある時期、私は贖罪について、またへりくだりたる心と悔いる精神の意味するところについて理解したいと思い、/断食し、祈り、猛烈に勉強したことがあった。そしてその出来事が私個人とどのような関係があるかについて次第に理解できるようになってきた。アルマと彼の時代の人々は、すべて救い主と個人的な交わりがあったことを証している。私はこの同じ交わりがメルビン・J・バラードの夜の夢の中の経験に(ブライアント・S・ヒンクレー、Melvin J・Ballard — Crusader for Righteousness 「義の戦士、メルビン・J・バラード」P.66)、オルソン・F・ホイットニーの見たゲッセマネの園のキリストの示現の中に(ブライアント・S・ヒンクレー、The Faith of Our Pioneer Fathers 「開拓者の信仰」P.212—13)、そして次のハロルド・B・リー大管長の話の中にあったと感ずるのである。リー大管長はこう語った。

「大会の1週間後のことだった。私は救い主の生涯という題の話をラジオで放送するためにその準備をしていた。そこで救い主の地上での生活、十字架におかかりになったこと、そして復活について再び読んでみたが、その私の心に去来したものは、これらの物語が全くの真実であるということだった。正に書き記された以上のものだった。事実私には、まるでその場に居合わせたかのように、その光景がはっきりと見えたのである。私はこれらのことが生ける神から啓示を通してもたらされたもの



であることを知っている。」(ハロルド・B・リー『神の啓示』 Speeches for the Year 「年度講話」 P.10)

では、次のような情景を頭の中で描いてみていただけないだろうか。聖典を一生懸命研究していたところ、自分がそのあるべき姿また自分でそうなりたいと思っている姿と比較して、現在犯している罪が多過ぎるのではないか、またあまり啓示を受けられず、生活においても自らの管理人の職を果たす上においても幸福感が得られないのは、聖霊の力を十分受けていないからではないかということに気づいたとする。

そこであなたはイノスのように、完全な罪の赦しを得ることをそれまでになかった程強く渇望する。確かにあなたはバプテスマを受けた。しかし頭に手を按かれ、約束の言葉が宣言されるのを耳にしても、それはみたまによりバプテスマを受けたことにはならない。絶えずへりくだり祈ることにより主のみもとを訪れ、罪の赦しを受けることができるよう願い求めなければならないのである。

ここで主の贖いを心に思い浮かべる方法についてご紹介したい。これを用いればあなたにとって贖いはより現実味を帯びてくるに違いない。まずあなたが救い主と共にあなたの生涯を振り返っている情景を想像して欲しい。戒めを破ったときのことが話題にのぼったとき、あなたはどういう気持になるだろうか。私は考えただけでもいたたまれいくなってくる。自分の犯した罪が恥ずかしくてならないならである。あなたの犯した罪が恥ずかしくてならである。あなたの犯した罪の数々が、救い主の前でどらである。あなたの犯した罪の数々が、救い主の前でといるであるうか。なぜなら主は私たちの弱さと不従順をすべて知りたもうからである。何と身を引き裂かれる思いがすることであろうか。特にその罪を償う方法が全くないことを知ったときは。

それから恐らく、あなたの思いはゲッセマネでの主の様子に返っていく。毛穴から血がしたたり落ちるほどの悲しみと苦悶にさいなまれた主の姿に。そして、あなたはその苦しみの一部があなたの罪のために払われたことに気づくのである。

私が悔い改めた後にこのことを考えると、何かが起きる。何か新しい喜び、平安を感じ心が清くなり身を変えられたような気持になる。そして全く別世界にいるような気持になるのである。(アルマ36:20, 21参照)この変化は、私が不従順な結果もたらされる苦痛を進んでその身に受けて下さる、救い主の大いなる愛の現われである。(モーサヤ5:2参照)ああ、その祝福は何という喜びであることか。

4. 主を知るということは、主のようになれるということを知ることである。福音のメッセージの中で最も根本的なものは、イエス・キリストにより人は生まれ変わり、主の息子、娘になれるということである。

私は福音を研究すればするほど、再び生まれ変わるとい う過程が自らの身に神の性質を取り入れる過程と何ら変わ りないことをさらに強く確信するのである。(IIペテロ1:4参照)すなわち主の性質、属性が聖霊を仲立ちとして私たちの中に注がれ、聖霊が徐々にその力を強めていくとき、私たちも次第次第にキリストと似た者となる。私たちは再び主のかたちに造られ、主の御姿を自分の身に受けるのである。(アルマ5:14参照)そして心も人を愛する能力も、また親切心や忍耐力、さらに接するすべての人を大切にしようとする気持も、今までとは異なって全く新しいものとなる。

私たちが自覚しなければならないことは、自らの弱さ、個性にかかわりなく、また私たちの過去がどうであれ、福音のメッセージはあなたや私をすべて、完全に変えてくれるということである。今日多くの人々が、人間の本性は人間の意志で変えることができると確信している。全く変えられてしまうとすれば恐ろしいことである。私たちはキリストに対して生きた力強い信仰を持つことにより、キリストのようになる力を受ける。イエス・キリストを知ることとは、イエスのようになれるということを知ることである。

5. 主を知ることとは、主により生活上の問題がすべて解決できることを知ることである。ニーファイの力強い証を読んでみよう。「私は主が命じたもうたことを行って行う。私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわないことを承知しているからである。」(Iニーファイ3:7)

私たちの世代にあって福音を守って生活するということ は大きなチャレンジである。人間的な考えが生活の中に深 く浸透し、多くの人々は、他の方法をもってしては解決で きないことでも福音をもってすれば解決できるということ を信じようとしない。主は、主によらなければ不可能なこ とを、私たちになすように命じられるであろう。だが主が そのように不可能に思われる事柄をお命じになるとき、主 を心から信頼して、主が命じたもうことをなせるかどうか ありのままに見てみようではないか。それこそ私たちがこ の地上にいる目的なのだから。私たちがそのようにして主 によりいろいろな事柄をなし遂げるようになると、主が偉 大な力を持ちたもう神であることがおのずとわかってくる。 そして全く日常の生活を通してであれ、奇跡によってであ れ、主は私たちが信頼する限りに、主の業を行なう私たち を助けて下さるのである。私たちは皆、祈りが答えられる ということを経験を通して知っている。また主が私たちの ために日々恵みを与えて下さることを証できる。今私のこ とを話すのはよそう。あなたにはあなた自身の証があるの だから。

6. 主を知ることとは、主が慈愛にあふれた父として私たちを愛して下さっていることを知ることである。私は人生において最も本質的なこと、それはイエス・キリストが慈愛にあふれた父として私たちを愛して下さること、それ

ゆえに私たちと交わりたいと切望しておられることを知ることである。主は聖典を通して、私たちとの交わりについてやさしく、また身をもって教えて下さる。オリブ山で主はこのように言われた。「ああ、エルサレム、エルサレム、予言者たちを……殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを集めようとしたことであろう。それだのに、おまえが私は応じようとしなかった。」(マタイ23:37)私には主が私たちすべてに腕をまわし、慰めと励ましを与えようとしなおられるように思える。私たちの心に手を伸べ、悩みやもおられるように思える。私たちの心に手を伸べ、悩みやもためれるように思える。私たちの心に手を伸べ、悩みやもためれるが主の目から見て永遠に貴重な存在であることを気づかせてくれるのである。

私は父との間にこれと同じ経験をした。私がまだ幼ない頃、父はよく私を腕に抱きしめてくれたものである。そして年が過ぎるにつれて感じるようになったのは、いつどのようなときでも外から帰って来ると、父と私は抱擁を交わしたのだが、それが私にとって大きな慰めとなり励ましとなっているということだった。互いに無言のときもしばしばあった。だがこの経験は、私たちふたりの愛の絆をます強めてくれた。

妻や子供たちとの関係について気づくことだが、私にとって彼らがどんなに大切な存在であるかを告げることほど 重要なことはないのではあるまいか。

ある朝、日曜学校に出かける前に、わが家で子供たちの間にちょっとしたもめ事があった。私たちは車の中で14歳になる娘が来るのを待っていた。私が「何してるのかな」と尋ねるとほかの子たちがこう答えた。「ちょっと口げんかしちゃってね、ふくれてるんだ。家の中にいるよ。」

私は車を降りて家に入った。傷つきやすい年頃の娘は、だいぶ感情を害していた。このような状況の下で私ができることと言えば胸にしっかりと娘を抱きしめ、どれだけ彼女を理解しているかを知らせ、何も心配はいらないことをわからせることである。

父親の愛はかけがえのない力となる。ハロルド・B・リー大管長はこう語った。「父親の息子に対する愛情が強いものであり、幼ない頃からその暖かい心で息子に接していればふたりの間に結ばれた愛情の絆は次第に強くなり、やがて理解ある父親のしっかりした導き手が必要となる少年期にあって、父親と息子とを固く結びつけるものとなるであろう。」(Church News 「チャーチニューズ」1971年7月17日、P. 2)

先日ある婦人が私のもとを訪れた。身なりもよくきちんとしていて、清潔そうに見えるが、何となく自信のなさそうな素振りである。一見して孤独で不幸な生活を送っているのではないかと思えた。事務所に入った彼女は壁にかけてある私の子供の大きな写真を見てこう尋ねた。「ペイス兄弟、あなたのお子さんですか。」「そうですよ。」「愛して

いらっしゃるんでしょうね。「ええ、それはもう。 そして彼女はしみじみとこう言った。「ペイス兄弟、お 子さんたちは兄弟の愛に気づいていらっしゃいますか。」 「はい、そう思います。私は毎日子供たちを抱きしめ、ど

んなにかわいいかを話すんですよ。」

すると彼女は思いつめたようにこう語った。「ペイス兄弟、もしだれかが私を胸に抱いて心から愛していると言ってくれたら、それが私にとってどんなことなのかおわかりになりますか。」 だれからもやさしいいたわりの言葉をかけてもらったことのない女性が悲しむ様は、見るに忍びないものであった。

私は彼女を椅子に座らせ、言った。「お嬢さん、救い主があなたを永遠の愛をもって見守り続けていらっしゃることを知っていただきたいですね。私がどのようにしてそれを知ったかおわかりですか。主が私たちに関して語られたことや、してくださったことからそれがわかりますし、あなたへの限りない愛はすべて主から出たものなのです。」

みたまの賜の中で永遠の生命を除いて最も偉大なものは、愛すなわちキリストの純粋な愛である。主を知るということは、主が私たちすべてを永遠に愛しておられるということを知ることである。そしてその愛がどのようなものかを知るためには、私たちも主が愛されると同じように人を愛さねばならない。ブリガム・ヤングはかつてこう語った。「どんなに小さなつまらない人間でも、この地上に来た限り世の人々と同じ価値がある。」(Journal of Discourses 「説教集」第9巻、P.124)

私の考えでは、主を知るということは、自らの人生が、 また他のあらゆる人々の人生がいかに貴重であるかを知る こと、すなわち愛する御子を通して一人一人を天父のもと へ連れ戻すよう全力を尽くすということである。

私は回復された教会と神より与えられた原則、儀式に感謝する。また人の堕落へと向かう性癖を克服し、やがてはキリストと似た者になれる力が私たちに付与されていることを感謝する。私は現在および過去の予言者に感謝する。彼らのキリストに対する雄弁かつ力強い証は、私に次の救い主の言葉の何たるかを教えてくれる。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ17:3)

私たちと天父を結ぶのはイエス・キリストである。天父は、私たちが主を知り、生活をすべて主に捧げようとするならば、私たちを主につける者として結び固めてくださるであろう。

「わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。」(ローマ8:38,39)

女性の生活にくまなく貢献する

扶 助 協 会

中央管理会会長ベル・S・スパッフォード 姉妹との対話

今を去る 133 年前の1842年 3 月17日、末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会が、予言者ジョセフ・スミスの手により世界中の女性とその家庭を祝福するべく組織された。

質問: 扶助協会はよく年配女性のための組織のように見られていますが、実のところどんな人たちが会員なのですか。

スパッフォード姉妹: 現在では、扶助協会は18歳以上の全女性が会員です。18歳未満でも、結婚していて、特に子供でもあれば、その人たちも扶助協会の会員になります。教育やホームメーキングや音楽、社交活動、レクリェーション活動があって、扶助協会は女性たちの生活にくまなく役立っています。

質問:扶助協会は一般の婦人団体とどこが違うのでしょうか。
スパッフォード姉妹:いろいろな点で違っていますが、まずその機構です。一般の婦人団体は役員を選出しますが、扶助協会では神権によって指名されます。ほかでは規約や内規で運営されますが、扶助協会は予言者の指示を仰ぎます。扶助協会が初めて組織されたとき、姉妹たちがジョセフ・スミスに規約を提出したのですが、ジョセフ・スミスはその労をねぎらいながら、主が「それよりも良いもの」を用意して下さると言いました。それから扶助協会が神権の下に組織されると、予言者はこう言いました。「この大管長会を規約として下さい。大管長会の決定はすべて規制とみなし、そのように行動して下さい。









……あなたがたの集会の議事録が前例となるでしょう。 それがあなたがたの規約です。(History of the Relief Society「扶助協会史」1842-1966年 P.18)

このことは大半の婦人団体と非常に違った点です。ほかの団体では聡明な人々が知恵をしぼって運営しますが私たちは真理を啓示されます。その結果としてひとつ違っていることは、私たちには、婦人団体の当面する問題にはっきりした解答があることです。ほかの団体ではよく役員改選のときに熾烈な競争があったりしますが、扶助協会ではそういうことが皆無です。良い姉妹なら、ワード部の扶助協会会長になりたいと思いこそすれ、その仕事をもらおうなどとは思いません。召しはそんな形では与えられないのです。役員は神権によって指名されますから。

質問:長年扶助協会の責任をつとめてこられたわけですが、これまでの扶助協会が置かれてきた位置、またこれから先の見通しなどを伺いたいのですが。

スパッフォード姉妹: 扶助協会創立以来目だつことといえば、世界の大半の国において社会、経済、産業、教育面で著しい変化があったことです。そして何よりも意義深い変化は、女性の地位の向上だと思います。扶助協会創立当時は、女性の世界というものが、家と家族とほんの狭い地域内での奉仕に限られていました。

ところが現在は、その世界がまるで無限に広がっています。 意志と備えさえあれば、女性の入り込めない領域 などめったにありません。

けれど、何もかも変化している中で、扶助協会の機構や創立当初の目的はそのまま変わっていません。目的に従って動き続けた教会のこのプログラムは、どの時代にも女性の要求に応えてきました。

何年もの間、扶助協会の目的はちょうど真理が不変であるように変わりませんでした。ノーブーのほんのひと握りの女性にとって大切だった目的は、世界中の女性にとって今も大切です。それは扶助協会の驚異です。私は

長い間扶助協会で働いてきて、その偉大さをようやく知 り始めたばかりなのです。

質問:現代の末日聖徒の女性の役割は何だとお思いですか。

スパッフォード姉妹: 教会の見地から言えば、女性の役割は今も昔も同じです。女性は自分の家庭、つまり夫や子供や育児の責任を最優先させるべきです。それは神聖な使命なのですから。全部の女性が子供を持つわけではありませんし、この世で子供を育てる特権にあずからない人はいますが、でもそのような人たちも、主が期待しておられるような成長を遂げる大きな可能性を持っていると思うんですよ。

質問:家庭内で女性にできる一番の貢献は何でしょうか。

スパッフォード姉妹: 母親には、家庭に霊的雰囲気をつくるという大事なすばらしい機会があります。 言葉によって、またそれよりも大切なのは態度によって、主を愛するとか、神権を敬うとか、充実した生活、家庭そのものに反映してくる平安で秩序正しい生活をするということがいったいどういうものなのか、子供たちに教えることができます。母親がいつも聖霊と共にいたら、どんな家庭になるか、想像ができますか。

質問:女性はどんなふうにして、ワード部や支部に貢献できる でしょうか。

スパッフォード姉妹:扶助協会やMIAや初等協会の役員になったり、書記になったり、いろいろな補助組織で教師として教えたり、女性はこれまでも教会の役職を受けてすばらしい働きをしてきました。でも私は、ワード部の女性にできる最も大切で最も立派な仕事は、愛の奉仕だと思うのです。

私はバンコグの絹織物工場に行って、織工が鮮やかな色の大きな糸巻で生地を織るのを見学したことがあります。一番上に別の絹糸を巻きつけた小さな糸巻があって、ひと機織るごとにそれが下りてきてくるりとひと巻まわっていました。「あれは何でしょうか。同じ糸ではありませんね」と伺うと、「ええ、違います。特別な糸で、生地に光択と強度をつけるためです。だからタイシルク







に価値が出るんですよ」というお返事でした。教会の女性、若い人も年配の人も、女性たちにとって、愛の奉仕がそれと同じです。愛の奉仕は、ほかでは決して得られない光択と強さを、女性たちの生活に与えているのです。

質問:若い女性には特別な仕事といったものがあるとお考えですか。

スパッフォード姉妹:はい、あると思います。奉仕の中でも、特にお年寄や外出できない人たちへの奉仕といった若い人たちにこそできる奉仕というものがあります。若い人の訪問を受けて、「買物に行きますから、何かついでに買ってきてさしあげましょう」と言われたら、お年寄はどんなにうれしいことでしょう。ただ立ち寄るだけでも寂しさがまぎれます。衣類を少し洗濯してあげても、とても大きな奉仕になります。私たちは老人や病人の世話については、若い女性たちが教会の大きな力になれると考えています。

質問: 片親の家庭に対して、何か助言を伺いたいのですが。

スパッフォード姉妹: 私の母が未亡人でした。父が若いときに死んで、母は7人の子供を育てあげました。息子たちを伝道に出し、ふたりの娘には教育を受けさせ、自分は外に出て働きこそしませんでしたが、家でどんなに働いたことか。ひとり残された母親には大きなチャレンジが待ち受けています。でも同時にすばらしい機会もあります。ひとりで子供を育てている未亡人や離婚した女性は、よく重荷を感じたりひとりで悲しんだりしますが、ぜひこんなふうに考えて下さい。「この子供たちの必要を満たして立派に育てあげる大事な仕事が自分にある。手伝って下さる監督がいつもそばにいるし、ホームティーチャーも助けて下さる。扶助協会の会長からは子供服の作り方を教えてもらえる。一生懸命働けば、自立できる強い家庭にきっとなれるわ」と。

質問:堕胎や産児制限や女性解放運動や外で働くべきかどうか などの問題に悩む女性たちに、何かアドバイスを。

スパッフォード姉妹:女性には、教会から必要な指導があります。問題は、女性たちがそれらの指示の正しさを知って従うことができるように導くことです。外で働くことに関しては、自分のしていることと、家や家族や子供たちのためとを、いつもはかりにかけて考えていなければなりません。ただ自分の気持を満足させるために子供たちに犠牲を強いてまで働くべきではありません。愛や安心感などの価値は、お金ではかることができないのです。

質問:来年度の扶助協会で何か特に強調したいことはありますか。 スパッフォード姉妹:主な目標が3つあります。最初の目標は 証を強めることです。教会の女性に望みたいことは、各 自がどんな試しにあってもそれを切り抜けられるだけの 強い証を持つことです。だれでも試しにあうのですから。 試しを受けないことはみこころではありません。愛の奉 仕が扶助協会の土台だとよく言われますが、私は愛の奉 仕はその人の証のあらわれだと思います。

2番目の目標は、姉妹たちの間に愛と理解を深めることです。福音に対する強い証を持って教会の指導に従い

国境を越えた姉妹愛を育てている90万から100万の女性 たちのことを考えてみて下さい。今年度の教養のレッス ンは、そのような姉妹愛を培うことが目的です。

3番目の目標は、女性たちが実生活の問題を上手に処理できるように手伝うことです。インフレはどのようにして乗り切るか、生活費の高騰にはどのように対処するか、病気予防のプログラムで兄弟たちをどんなふうに助けたらよいのかなど、いわゆるホームメーキングの技術を教えなくてはいけないと考えているので、そのために、栄養に関するレッスンや小さな裁縫教室を計画しています。

質問:母親教育レッスンの成果はいかがですか。

スパッフォード姉妹:女性の皆さんはこのレッスンを楽しみにしています。母親教育レッスンによって、扶助協会の託児活動が強化されたのはうれしいことです。母親たちが育児の原則を学ぶと、実際に子供を世話しながら、実習のようにしてその知識を生かしたいと思うわけです。成果は立派に広がりつつありますよ。

質問:スパッフォード姉妹、あなたは扶助協会を管理してこられた間に、教会の女性が自分の家庭や召しを果たす上で 役立つような指導の原則を何か学ばれたでしょうか。

スパッフォード姉妹:学んだことのひとつですが、教会には私たちを現在の自分以上の者にする機会があるということです。私たちが教会の召しを果たそうと意識して努力すれば、主は霊感を与えて下さいますし、教会は私たちが召しにふさわしくなるための経験を与えてくれると思います。従順がとても大切なことだと思うんですよ。そのように頑張って勤勉、忠実であったら、きっと助けがやってくるはずです。

質問:教会の女性は神権に助けられて働くということについて、 ひと言どうぞ。

スパッフォード姉妹:それは一番の祝福だと思うんですよ。ジョン・テイラー大管長は扶助協会創立の席上で、扶助協会が天の律法、つまり神権によって動く神の律法に従って組織されたのは、喜ばしいことだとお話をされました。神権組織は神の律法によって運営されます。私は神権の指示の下で働けることを本当にうれしく思っています。

主は娘たちのために神聖な使命を備えておられます。 主は娘たちを愛して、才能や能力や知力を尊重しておられるので、一人一人の性質に従って仕事を分担させるのです。 家庭という組織には長として男性を置かれましたが、それはきっと主の御計画だと思います。はっきりしていますね。

質問:福音や扶助協会について感じておられることをお聞かせ 下さい。

スパッフォード姉妹: 扶助協会への出席は、特権ばかりではなく責任でもあると考えていただきたいと思います。主は私たちに何かを与えておられるのですから、私たちにはそのすばらしい賜を利用する責任があります。教会員だということは大きな特権です。扶助協会の会員だということもすばらしい特権です。女性が自分を伸ばし、同胞に奉仕し、自己を表現できるようになり、賢明に良い生活を築いていくことは、かけがえのない大切なことだと思います。

両親及び若者の指導者として、 あなたは今日の音楽について 何を知るべきか。

ラリー・バスチャン

1970年12月、大管長会は次のような声明を発表した。

「音楽により自己を表現する能力は、こまやかさと力強さにおいて言語の域を越えるものである。音楽は人に霊感を与え、人を高める一方、人を堕落させ、破壊に導くこともある。それゆえ、我々末日聖徒はいつも身のまわりの音楽を選択する際に福音の原則を適用し、みたまの導きを求めることが大切である。」(「神権会報」1970年12月 P.9)

ほとんどの人はポピュラー音楽が若人の人生に多大な影響を与えること、そしてこの分野において彼らに適切な判断を下すように教えるのが神権指導者の責任であることに 異論はないであろう。

しかし教えるにあたっては、まず相互に関心と理解がなくてはならない。というのは指導者の中にはポピュラー音楽についてほとんど知識がなく、表面的な議論しかしようとしない人もいるからである。

では、どのようにしたらポピュラー音楽に関して若人と 効果的に意志を通じさせることができるだろうか?

まず最初に私たちはポピュラー音楽そのものに関してある程度理解し、なぜ若者がそれにひきつけられるのかを知らなければならない。もし、ある音楽的な表現を福音と相反するものとして非難するとすれば、私たちはなぜそれが相反するものなのかをきちんと説明できなければならないし、さらに言えば、選択する若人が適切な判断を下す上で助けとなる原則も教えることができなければならないのである。私たちがポピュラー音楽をよく知るように努力しなくてはならないのはこのためである。

そのためには、まず根気よくポピュラー音楽を聞き、評価することである。この点で若人からの助けを得ることができる。若人との話を通して彼らがどのようなものを好むか、またなぜ好むかがわかるし、ポピュラー音楽がどういう響きを持っているのか、歌詞は何を言おうとしているのかを知ることができる。このことは先入観を持たず、心を

広くして進めてみて欲しい。そうすれば驚くべき成果を目 のあたりにすることができるであろう。なぜなら、今日の ポピュラー音楽の多くは十分評価に値するものだからである。

現代の若人にとって彼らの音楽はまさに若さにあふれ、都会的に洗練され、何か興奮させるものを持っている。若人にとってポピュラー音楽は、仲間であることのしるしであり、コミュニケーションの手段なのである。また共通の体験も与えてくれる。従って彼らは、仲間がポピュラー音楽について良く知っていることを期待する。彼らはどこに行っても音楽を聞く。以上のことからもわかるように教会の若人と話すときには、ポピュラー音楽が若人にとって非常に重要な意味を持つことを忘れてはならないのである。

ではなぜ私たちは、2,30年前の音楽と比較して現代のポピュラー音楽の方に関心を抱かなければならないのだろうか。ひとつには、社会はわずかずつではあるが強力な変化を受けて来ているということである。社会は映画をはじめテレビ、本、雑誌、演劇、そしてもちろん音楽に関して、大衆受けのするものは何でも受け入れるという方向に急速に傾いて来たし、世間の物の考え方も以前には考えられなかったほど中身のない、煽動的なものになってきている。

例えば世俗一般の若人の大勢を占める道徳規準は、次の処世訓によって言い表わされているように思える。「他人を傷つけない限り何をやっても全くかまわない。」 この考え方は現代の娯楽のすべてに明白に現われている。私たちはポピュラー音楽を通して幻覚剤への逃避、道徳規準の放棄、権威への反逆、そして情欲や利己的欲求を制止できない姿を目のあたりにしてきた。恐らくほとんどの若者はこのような標準に従って生活しているわけではないだろうが、ここ数年来の動向を見ると、この考えがどんどん受け入れられていることがわかる。

しかしながら、すべてのポピュラー音楽が、いわゆるロックといわれるものでさえ、この何でも認めてしまうよう

な考え方を助長するわけではないということに注目することは重要であり、また慰めでもある。

「私たちの指導者としての目的は、若人に良いものを選び悪いものを捨てるということを教えることである。彼らが自らそのように選択するとき、私たちは成功したことを知るであろう。」

ではどうしたら最高のポピュラー音楽を選べるようになるのだろうか。歌詞の意味や演奏の仕方、そしてどんな反応が引き出されるかということの中にその答えがある。よく歌詞を聞けば、その歌の持つメッセージは簡単に評価できる。もし非道徳的な行ない、幻覚剤の使用、悪魔崇拝、権威への反抗、もしくは福音に反する行為などが歌われているとしたなら、その歌は用いられるべきではない。例えば「イエス・キリスト、スーパースター」は、教義的な面で正しくないところがあるので受け入れられないのである。

良い音楽を選ぶ第二段階は、その演奏の暗示するところを評価することである。残念なことに、何の変哲のない曲でも演奏によっては悪らつなものに変化しかねない。もし、演奏の仕方が聞く者を消極的な気持へと駆り立てたり、もしくは欲望を伝えたりするようなものならば、たとえ歌詞の中に明確にそのようなメッセージが無かったとしても、明らかにその音楽は使われるべきではないのである。演奏家の中には、演奏の仕方が不適切だということで拒否されるべき人々もいる。

演奏家の服装、身だしなみ、および動作は間違ったものを伝える可能性があるし、歌手のしぐさも、歌詞の意味するところとは異なったもの、すなわち抑制のきかない動物的なものになりかねない。

残りは演奏の音の大きさ、リズム、テンポ、演奏家の熱情、およびその他の要因の組合わせに関連したことである。この組合わせを「インテンシティー(緊張)」と呼ぶ。演奏におけるインテンシティーは、他の要因よりも演奏を聞く人々にとって大きな影響を与えるものである。演奏が非常にインテンシティーにあふれたものであるならば聴衆は感情的に圧倒され、音楽によって自制心を失ってしまうだろう。この結果は、それがハレルヤコーラスを聞いての経験であるならば肯定されるべきものではあるが、間違った考えや感情が引き起こされたときは、否定されるべきものとなるであろう。

このインテンシティーはダンスのときに特に問題である。 ダシス音楽が熱狂的で抑制のきかないものならば、踊る人 人は感情的に過度に刺激されてしまうであろう。このよう なときに人々は自分の意志ではなくて音楽によって体を動 かすようになる。そしてとどのつまりは、熱狂的で挑発的 な踊りをも引きおこすことになるのである。このような状況の中では、人の心を不健全な方向に向かわせてしまう誘惑を立ち切ることはできなくなってしまう。

この様な事態が生じたとき、音楽のインテンシティーは ボリュームを下げることやビート、テンポ、演奏家の熱情 に変化を与えることによって減ずることができる。ボリュ ームを下げることによってほとんどの問題は解決する。

ダンスの音楽は、会話が不可能な程のボリュームで演奏すべきではない。しかしながら時として音の大きさそれ自体は問題でないことがある。その場合はビートやテンポを修正すること、また感情的な演奏をしないようにすることである。必要なのは、このようないくつかの要素を組み合わせて実行することであろう。ボリュームをどのように変えてみても強烈であるために良くない感情的反応しか引き起こさない音楽は避けるべきであろう。

多くの若者は、ロック音楽により引き起こされる感情によって圧倒されてしまうが、そうした結果を期待するようにし向けられて来ているとも言える。そして、それこそが多くの若人のダンスやロックコンサートの目的のように思われる。チャレンジは、どうしたら若人に抑制ということを教えられるかということである。

教会の若人と話すとき、私たちは彼らの観点から理解をもって問題を見つめなくてはならない。しかし、同時に大切なことは、率直であり、正義の原則に妥協しないことである。ボイド・K・パッカー長老は次のように言っている。「教会を、まるで荷車で運ぶかのように、すでに大人や若人が入り込んでいる道へと引き入れようとすることは、指導者に召された人の特権ではない。」

これは簡単なことではない。努力と忍耐を続けることが 要求される。そしてそれぞれ新しい世代の若者たちが同様 の導きを必要とするであろう。

「他の人が知り得ないことを知ったときにどう行動するかによってその人の性格がわかる」と言った人がいる。若人とポピュラー音楽についても同じことが言える。私たちは教会が主催して行なうダンスを監督し改良していくこともできるし、ふさわしくない音楽を家庭から追放することもできるであろう。しかし、教会の若人が自ら進んで最高のものを選択したときにのみ、私たちのこの仕事は本当に成功したことになるのである。

何を行なえばよいかは明らかである。天父は私たちがこの責任を果たすのを助けて下さるであろう。教会の若人は、 自分で理解できる助言は受け入れるはずである。教えよう と思えば教えることはできる。いや、そうしなければなら ないのである。

両親への提案

「お父さん、お話してくれる?」

ゲリー・J・コールマン

私たちの家庭において、月曜日の夜は特別である。それは父親と母親がそろって家にいるだけでなく、その日が家族全体にとって神聖なものであり、家族の緊密な関係を深める上でまたとない機会となっているからである。

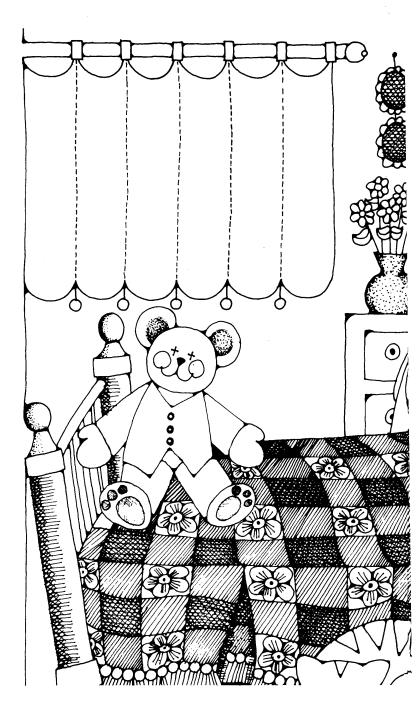
家庭の夕べのレッスンや活動が終わり、祈りが終わると、 4人の子供たちは床につく。それから、私たちの特別な時間が始まる。それは神権者の言葉で言えば、個人面接と呼ばれるものかもしれない。

しかし、子供の世界では、次のような言葉で表現されている。「お父さん、お話してくれる?」

まぶたが重くなり、安らかな眠りが訪れる前の静かなひとときを、私は子供たちとの心暖まる対話の時として過ごすことにしている。それはお互いの心の中に、愛と信頼と心からの関心を呼び起こすものとなっている。子供たちが今晩は自分が一番先だと競い合うのを見るにつけ、私は今晩もすばらしい対話ができると期待に胸をふくらませる。最初、一番下の赤ん坊としばらく遊び、赤ん坊の幸福な笑いを後にし、男の子たちの部屋にそっと入っていく。私が4歳の男の子の側にすわると、彼はそれまでベッドの上で揺すっていた体を休めて言う。「きょうはばくのこと話してくれる?」「そうだね、今晩はお前のことにしよう。」

4歳の男の子はおもしろい話をするが、ひとつの話題を長く話すわけではない。5分か10分位ゆっくり話し合うと、もうお兄さんの所に行く時間だよと自分で言う。私はそっとベッドを離れて、お兄さんの側に横たわる。

6歳の男の子は伝道に出ること、母親を助けること、学校での出来事やフットボールの試合のこと、そして自分もそのようなフットボールの英雄になりたいことなどを話す。時々、4歳の男の子が横からこっそりのぞいて見ているがすぐに静かになる。この一番上の男の子には、人生経験への準備をさせる意味で、子供の頃の経験をよく話す。ここにも親と子の親密な対話がある。思慮深いやさしい父親と





P.116から続く

いうものは、いつでも子供に対して対話の扉を開けているものである。しかし、子供たちにその日のあったことを話してもらいたいと思っている父親がここにいる。確かにこのような人生について語り合う静かなひとときこそ、父親は祝福を与えることができるのである。その間私の7つになる娘は、じっと自分の番を待っているわけだが、我慢できなくなって自分の部屋から、「お父さん、私の番はまだ?」と声をかける。そこで私は息子に愛と激励の言葉を与えて、ベッドを離れる。そばで安らかな眠りについている一番下の息子に目をやりながら部屋を出る。この日は長男が早く眠りにつく唯一の晩でもある。父親とのわずかな特別な時間が彼の心配事をすべて拭い去ってしまうのであろう。

一番上の娘のベッドに腰かけると、娘は声をはずませて しゃべりまくる。学校や友達や教会のこと、そして日頃抱 いているいろいろな疑問について。それから長い話を最低 2つか3つ、自分の好きな本から取って話すのである。

私は娘に上品な服装について優しく注意し、福音の原則を守って生活するよう励ます。それから、娘に母親の言いつけをよく守って、母親をいつも愛するように悟し、自分が生ける予言者に対して抱いている証を娘に伝える。最後. に、もう数ヵ月後に迫ったバプテスマに備えて、監督が尋ねそうな問題をふたりで復習してみる。

この「個人面接」は家庭の対話を増す絆となっている。 それは私にとっても偉大な教育の場であり、またとない学 びの場でもある。こうして私が模範的な生活態度に愛と感 謝の言葉を述べると、娘は安らかな寝息をたて、もう夢の 国を散歩している。

こうして、子供たちが寝静まると、私たちの家にも静寂 が訪れる。家族はお互いに愛し、理解し合い、また一歩前 進したのである。

それから静かな居間に戻り、4人の子供のすばらしい母であり、そして私の妻である人と静かに語り合う。このようにして私たちは、子供たちと、また私たちも互いに、いつも心を通じ合える状態にあるようにと願うのである。

私たちの家庭の囲いの中では、この神権を基とした対話が確かにお互いを高め合い、慈しみ合うすばらしいひとときとなっているのである。

(コールマン兄弟は現在、ワシントン州のスポーケーンでインスティテュートの教師をし、スポーケーン東ステーキ部の高等評議員に召されている。)

ダビディゴリアテ

1974年10月5日(土)神権部会

兄 弟たち、ここにおいでの皆様と、 また約19万5千人の同胞とまみえ るのはすばらしいことである。私たち はあなたがたに賛辞を呈し、愛を送る。

ずっと前、私がアリゾナ州セントジョセフステーキ部のステーキ部長会に属していたとき、ある安息日に責任のためエデンワード部を訪れた。建物は小さく、大勢の会衆は、床から50センチほど高くなっている前の壇の私たちと鼻突き合わせて腰かけた。

集会の途中で、礼拝堂の最前列にいる7人の少年が私の目にとまった。ワード部大会に7人の少年が出席していることをうれしく思いながらそれを胸にとどめて、また別のことに心を移していくと、やがてまたも7人の少年たちが気になった。

7人の少年がいっせいに右足をあげて足を組み、それからすぐにまたそろって足を組みかえたときには妙だと思い、おかしいと感じたが、それはそれで黙殺した。

するとすぐに、全員そろって右手で 髪の毛をなでつけ、またもいっせいに 体をやや傾けて手をほおにやり、それ から同時にまた初めの足組みに戻った。

すること全部が非常に奇妙に思われ、 集会で何を話そうか考えようと努めな がらも、そのことが不思議でならなか った。するとそのとき、頭に一瞬ひら めいたものがあった。あの少年たちは 私の真似をしていたのだ!

その日私は人生の教訓を得た。権威 ある立場の者は細心の注意を払わなけ ればならない。他人は自分を観察し、 それにならおうとするのだから、とい うことを。

模範は少年の人生にとって重要である。一般に、従う人は多くともひきいる人はごく少数である。あなたがた若 人全員が指導力を伸ばして良い模範者



大管長 スペンサー・W・キンボール

となることが大事なのは、そのためで ある。

それはあなたがたの生活にもあては まる。もしあなたに弟がいるなら、彼 らがあなたを観察し、あなたの言うこ とを聞いて、言うことや することを 真似るであろうことを忘れないでいた だきたい。

十代になったら、このことを胸にた たんでいただきたい。あなたが出るべ き集会に出、果たすべき義務を果たし ていれば、たいてい弟はあなたのやり 方についてくるものである。しかしそ の反対もありうる。

それはまた伝道についてもあてはまる。あなたがセミナリーやインスティテュートに熱心で、正しい態度を示し、 伝道に出る準備をしているのを見れば、 弟も同じ道に沿うであろう。

「鏡をのぞくように人の生活を見、 人からは自分の範を得よと、彼に命じ た」と言うのはテレンシウスである。

イソップ寓話の中にも、「ただ手本 を示して下さい。そうしたらそれに従 いましょう」という言葉がある。

模範は最良の教訓である。サミュエ ル・ジョンソンは「模範は説教よりも 効験がある」と語った。

あなたがた若人は、年齢にかかわりなく、今自分の人生を築いていることを承知していただきたい。見かけ倒むの安っぽい生活かうるわしく有益なに活か、建設的な充実した生活か破滅に進む生活か、それは喜びと幸せに満ちたものにも、悲惨に満ちたものにも、悲惨に満ちたものにも、悲惨に満ちたもの自身に、あなたの態度にかかっている。あなたがどこまで昇り得るかは、あなたの態度と状況への対応の姿勢で決まるのである。

スイスの山、カナダの山、ユタの山 に登るとき、大勢の人が共に山に挑む ことを考えてみたまえ。その人々もあ なたと同じ難所を乗り越えてきたので ある。

高い所に登りつく人も、その道は常に平坦ではなかったことを見逃さないでほしい。アブラハム・リンカーンは青年時代に、イリノイ州議会設置の運動に奔走して、痛烈な敗北を喫した。

次に事業に乗り出したが失敗し、17 年の年月を無能な仲間の借金返済に追 われた。やがて美しい女性に恋をし、 婚約したが、彼女は死んでしまった。 政界に入ってからは合衆国議会をめざ したがさんざんな結果で、国有土地管 理局のポストを得ようとしたが失敗し た。上院議員候補になっても大敗をな め、のちに1856年には副大統領候補に なりながらダグラス候補に負けた。し かし彼はそれらの重なる敗北にめげず、 ついに極めうる最高の成功を収め、不 朽の名声をかちえた。それが合衆国大 統領アブラハム・リンカーンである。 それが数々の本に書かれ、困難の山か ら自分の成功を彫り上げたあのアブラ ハム・リンカーンなのである。

再び繰り返そう。あなたがたは自分の 望む通りに自分の人生を築くのである。 作者不詳の言葉がある。「人生に大障害のあることを喜べ。おおかたの人間が克服しようとする以上に障害の高いことを、また喜べ。その数の多いことを喜べ。群衆をかきわけ、抜きん出るためのチャンスをくれるのが、その障害なのだ。障害は君の友だ。もしも高い障害がなかったら、君は大勢に追い越されるはずなのだから。

昔の話をお話したいと思う。ひとり の少年が人生をどのように形造ってい ったかを。

およそ3千年の昔、イスラエルの王、 サウルが自らの高い位に不相応なことを 露呈したため、主は後継者捜しに予言 者サムエルを遣わされた。予言者は8 人の息子を持つエッサイの家へ行き、 息子たちを目の前に呼んで会見した。 誇り高い父が長子エリアブを連れてき たとき、サムエルは「この人こそ、主 が油をそそがれる人だ」と思った。

「しかし主はサムエルに言われた、 『顔かたちや身のたけを見てはならない。わたしはすでにその人を捨てた。わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る』。 (サムエル上16:7)

誇り高い父親は次の子を呼んだが、彼も退けられた。顔かたちの美しい7人の立派な息子たちが次々と予言者サムエルの前を通り過ぎてしまってから、サムエルは父エッサイに、「むすこたちはこれで全部ですか」と尋ねた。す

るとエッサイは「まだ末の子が残っていますが野で羊を飼っています」と答えた。サムエルはエッサイに言った。「彼を連れてきなさい。」(サムエル上16:11参照)

やがて末の息子がやって来たが、彼は血色が良く、姿が美しく、人柄は明るかった。羊飼いで、1日の大半を野で羊と過ごしていたため、恐らく日焼けをしていたのだろう。主はサムエルに霊感を与え、サムエルは「これがその人である」と言った。(サムエル16:12)そして父親と息子たちがまわりを囲む中で、サムエルは油の角を取り、油をそそいで末の息子ダビデをイスラエルの王に召した。

その同じ頃、イスラエルの宿敵ペリシテ人がイスラエル征服のために軍を 集め、ある山の上に陣取った。イスラ エルは小さな谷をはさんで反対側の山 に陣をしいた。

戦闘を前に両軍が向かいあうと、ゴリアテという名の巨人が出てきて、イスラエルに戦いを挑んだ。

「なぜわれわれと戦いに出てきたのか。わたしはペリシテびと、おまえたちはサウルの家来ではないか。おまえたちから、ひとりを選んで、わたしのところへ下ってこさせよ。もしその人がわたしを殺すことができたら、われわれはおまえたちの家来となる。しかしわたしが勝ってその人を殺したら、おまえたちは、われわれの家来になっ

て仕えなければならない。(I サムエル17:8,9参照)そしてさらに言った。「わたしは、きょうイスラエルの戦列にいどむ。ひとりを出して、わたしと戦わせよ。」(I サムエル17:10)

この男は巨人で、いかにも恐ろしげであった。 3 メートルほどの背丈があってだれよりも高く、青銅のかぶとをかぶり、うろことじの重いよろいを身につけ、足には青銅のすね当、肩には青銅の投げやりを背負っていた。着ているよろいは実に重く、手に持つやりは機の巻棒のように長く、剣はかみそりのように鋭かった。その前を、盾を運ぶ者が進んだ。

ゴリアテは恐るべき敵であったに違いない。イスラエルの勇士たちが彼を恐れたことは無論である。イスラエル軍のだれもが縮み上がって退却するのは目に見えており、その挑戦を受けて立つ勇気や無鉄砲さを持つ者はひとりもいない様子であった。

この重大な時に、父エッサイはサウルの軍に送り出した上の3人の息子のことを心配していた。その息子たちがイスラエル防衛の戦いに出ているとき、末の子ダビデは羊を飼う仕事をあてがわれていた。

優しい父親は羊の番をしていたダビデを呼び、いり麦とパンを陣営の兄たちに、10のチーズは4人の長に届けるようにと命じた。

ダビデは朝早く起きて、エラの谷へ 出発した。羊が獣に追い散らされたり 殺されたり食べられたりしないように、 父の羊の世話は番人によく頼んでおいた。

ダビデが陣地に着くと、軍勢はとき の声をあげて戦いに出ようとしていた。

ダビデは荷物を預り人に託し、戦列の 方へ走って行って兄たちの安否を尋ねた。

すると40日間毎日のように挑戦し続けたあのペリシテ人が、また出てきて 大音声をあげた。

ダビデが戦列に行き着いたとき、人々は言った。「あなたがたは、あのイスラエルにいどむ巨人を見たか。彼を殺す人には、王が大いなる富を与えられることを知っているか。巨人ゴリアテを殺すことのできる人には、その父の家が税を免除されるであろう。」(Iサムエル17:25参照)

一番上の兄はダビデを快く迎えず、 怒って言った。「なんのために下って きたのか。野にいるわずかの羊はだれ



に託したのか。あなたの物見高さとわがままと悪い心はわかっている。戦いを見るために下ってきたのだ。」(Iサムエル17:28参照)

ダビデは兄の非難に気持を害したらしく、「わたしが今、何をしたというのですか。理由なくここへ来たと言うのですか」(Iサムエル17:29参照)と言った。彼は自分がイスラエルを救うために、霊感にうながされてここへやってきたのを知っていた。

サウル王がこの少年を呼び寄せたとき、ダビデは受けた霊感を、その啓示を繰り返し述べた。「だれも彼のために心配し、恐れてはなりません。わたしが行ってあのペリシテびとと戦いましょう。」(Iサムエル17:32参照)しかしサウルは驚き、ダビデに言った。

「行って、あのペリシテびとと戦うことはできない。あなたは年少だが、彼は若い時からの軍人だからです。」しかしダビデはサウルに言った。「しもべは父の羊を飼っていたのですが、しし、あるいはくまがきて、群れの小羊を取った時、わたしはそのあとを追っ

て、これを撃ち、小羊をその口から救いだしました。その獣がわたしにとびかかってきた時は、ひげをつかまえて、それを撃ち殺しました。しもべはすでに、ししと、くまを殺しました。この割礼なきペリシテびとも、生ける神の軍をいどんだのですから、あの獣の一頭のようになるでしょう。(Iサムエル17:33-36)

そしてまたこう言った。「ししのつめ、くまのつめからわたしを救い出された主は、またわたしを、このペリシテ人の手から救い出されるでしょう。 サウルはダビデに言った。「行きなさい。どうぞ主があなたと共におられるように。」(I サムエル17:37参照)

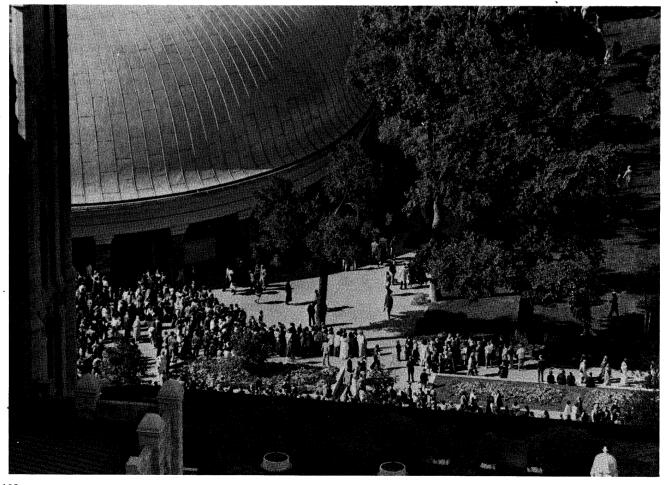
サウルは自分のよろいをダビデに着せたが、重すぎるため、ダビデはよろいを脱いだ。

そしてサウル王に、「わたしはこれらのものを着けていくことはできません。慣れていないからです」と言った。(Iサムエル17:39参照)

少年ダビデは小川を渡るときにかが み込んで5個の石を拾い、それを羊飼 いの袋に入れ、手には石投げを持って ペリシテ人の巨人に近づいていった。

巨人はみるからにあきれ、侮辱に憤った。血色が良く、若くて姿の美しい 少年を見て、怒りと不快を感じたペリ シテ人は言った。

「つえを持って、向かってくるが、わたしは犬なのか。」 ペリシテびとはダビデをのろった。 ペリシテびとはダビデに言った。 「さあ、向かってこい。おまえの肉を、空の鳥、野の獣のえじきにしてくれよう。」(Iサムエル17:43-44)



救を施すのに、つるぎとやりを用いられないことを知るであろう。この戦いは主の戦いであって、主がわれわれの手におまえたちを渡されるからである。 (Iサムエル17:45-47)

ペリシテ人と羊飼いの少年は、どち らも自信満々近づいた。

「ダビデは手を袋に入れて、その中から一つの石を取り、石投げにはめて、ねらいを定め、ものすごい勢いでペリシテ人の額を撃った。おそらくは唯一のすきある場所だったのであろう。石は巨人の額に深く刺さり、大ほらふきの大漢はうつむきに地に倒れた。」(Iサムエル17:49参照)

私たちは石投げや呼び子やぱちんこやボールなど、おもちゃは何でも自分で作り、使い方も手慣れたものであった。

「こうしてダビデは石投げと石をもってペリシテびとに勝ち、ペリシテびとを撃って、これを殺した。ダビデの手につるぎがなかった……」(I サムエル17:50)ダビデは石投げだけを持っていたのである。

ダビデの武器は小石と石投げと霊感と啓示であった。彼には勇気と力と自信と、特に天父への信仰があり、天父に祈りを捧げていた。

その一方、40日もほらと自慢を吹聴 して挑戦し続けたペリシテ人は、死の 最後を遂げた。

ダビデは地面にうつぶした敵の体に 近づき、首をはねた。敵軍の心中に恐 れが生じたのは確かである。案の定敵 は退散し、ひとりの霊感を受けた少年 が敵の全軍を破ることとなった。イス ラエル軍は逃げるペリシテ人を追撃し、 戦いに勝利を得たのである。

イスラエルの王は、そのように奇跡 的な勝利を収めた少年はいったいだれ かと尋ね、ヨナタンは彼に自分の剣と 弓と帯を与えた。聖書によれば、「ま たダビデは、すべてそのすることに、 てがらを立てた。主が共におられたか らである。」(Iサムエル18:14)

さて、若い兄弟諸君、現代のダビデには必ずゴリアテという敵があり、どとができることを覚えていてほしい。そのゴリアテは、握りこぶしや剣や銃の、でも、大いないかもしれない。 1 メートルの背丈はなく、、でいないかもしれない。 しかしている。そしてどの少年も石投げを持ち、なめらかなるある小川に近づくことができる。

あなたがたは自分を脅かすゴリアテに出会うであろう。そのゴリアテがならず者であろうと、盗みや破壊の誘惑、気まぐれるの誘惑、肉欲の罪の誘惑、肉欲の罪の誘惑、動動であるうと、あなたの出会うゴリアテをとえ何であろうともあなたの出会うがたとれてはならない。勝利者となるには、ダビデの歩んだ道を歩まねばならないことを。

「ダビデは、すべてそのすることに、 てがらを立てた。主が共におられたか らである。」(Iサムエル18:14)

ダビデは誠実に父の羊を飼った。父 からほかの仕事を与えられたときにも、 羊の番人なしに放って出かけはしなか

ダビデは信頼された。父から羊を託されて、羊を守るためには、たとえ危険を冒しても熊を殺し、ライオンを殺した。野獣の口から小羊を救い出して親に返してやった。ゴリアテを殺すために5個の石を拾ったが、必要なのはたったひとつであった。彼は立派な少年で、天父を信じ主を信頼したが、人は恐れなかった。あのペリシテ人の巨人をなじってこのように言ったのである。

「おまえはつるぎと、やりと、投げやりを持って、よろいをつけ、盾をとる者を連れて、わたしに向かってくるが、わたしは万軍の主の名、すなわち、おまえがいどんだ、イスラエルの軍の神の名によって、おまえに立ち向かう。」

(Iサムエル17:45参照)

しばらく前、私は雑誌からある広告

を切り抜いた。それにはこう書いてあった。

「ある日いつか、私たちはだれでも 逆境の冷たい風にさらされる。ある者 はそこから逃げ、糸の切れたタコのよ うに地面に落ち、ある者は一歩も譲ら ず、襲いかかる風は彼を楽々と高く揚 げる。私たちは出会う試みではなく、打 ち勝つものによって測り見られるのだ。

そのパイプラインの広告には、「川 も山も海もこのパイプラインの作業の 手を阻めない。川や山や海の入り込め ない所を、パイプラインは越え、もぐ り、またいで行く」と書かれていた。

この教会の、そして全教会員の心に いつもある思いは、今夕タトル兄弟が 話された伝道活動のことである。主は 使徒たちに、教会事務局の美しい絵に ある通り、行ってすべての造られたも のに福音を宣べ伝えよと言われた。(マ タイ28:19, 20参照) あなたがた若人 に再び言いたい。あなたがたの責任は その召しに応えることである。もし監 督やステーキ部長会から主の召しを受 けたならば、その召しを立派に果たす のはあなたの特権であり、義務でもあ る。またいったん伝道を目標に掲げた からには、世界各地に出て行って福音 を盲べ伝えるのにお金のかかることを 忘れないでいただきたい。今からその ためのお金を貯め始めるのは、あなた の特権であることも心に留めてほしい。

プレゼントをもらったりアルバイト をしたりしてお金が入るごとに、伝道 のための貯蓄に幾らかをまわすこと。 ある。少年たちは両親に頼らずに、自 分で伝道資金を貯めたいであろう。バ プテスマを受けて聖霊を授けられた世 界各国の少年は、福音を世の人々に証 する責任がある。またそれはあなたが たにとって良い機会であり、あなたが たを大きく成長させるであろう。

私はエドガー・A・ゲストの「装備 (Equipment)」という詩が好きである。

君よ、自分で未来を定めよ 偉人の持てるものは すべて君にある 2本の腕、2本の手、2本の足、2 つの日

賢明に使うならば その頭脳も。 彼らはみな その装備をもって始め たのだ

さあ、頂上めざして行け、「ぼくに はできる」 と言うのだ。

賢人、偉人、彼らを見よ ありふれた皿で食事をとり 同じようなナイフとフォークを使い 似たような靴のひもを結ぶ 世は彼らを雄々しく賢いと思う だが君は、彼らが初めに持ったもの をすべて 持っているのだ。

君は勝利し、熟練できる。 その気になれば 偉大になれる。 君が闘おうとするものに 君の装備 は充分なのだ 君には足があり、手があり、頭悩が ある 偉業を遂げた人も 君と同じに 人生を始めたのだ。

君が出会うべき障壁は君だ 君の境遇を選ぶのは君だ 君が望む行き先を告げるのだ 真理をどれだけ学ぶかを告げるのだ 神は君に人生の装備をされた。 だが神は君に、何になりたいかを決 めさせるのだ。

勇気が内から湧き出なければならない 勝利の意志を備えるのは人 さあ、君よ、自分で未来を定めよ 君は偉人の持てるすべてを持って生 まれたのだ

君の装備をもって 彼らもみな始め たのだ

自分を追い越し、そして言うのだ「ぼくにはできる」と。

Collected Verse of Edgar A. Guest「エドガー・A・ゲスト詩集」 シカゴ,レイリー・アンド・リー社 1934年 P.666)

あなたがたの前途に立ちふさがり、 挑戦するもうひとつの巨人ゴリアテの ことをお話したい。その名はポルノグ ラフィー,または汚れである。別の詩 を読んでみたい。

君が下品な話をするとき 仲間にどんな気持を与えたか しばし考えはしないだろうか。 仲間はそれを喜ぶと思うのか。 仲間が笑うから、それで得意になれ ると 君は思うのか。

不快にするのだ。

自分が心の中を すべてさらけ出しているのを知らな いのか

下品な話が君の口から出るときに。 それは君の汚辱を示し それは君の無学を表わし まことの楽しみを愛する気高い少年 たちを

君は常識のかけらを 示していると思うのか、 心がどれだけ腐っているかを仲間に 見せて いるときに。 父母と友とをはずかしめていることを

君は知っているのか。 考えてみたまえ、少年よ、わかるだ

考えてみたまえ、少年よ、わかるだ ろう。

言葉を少し選び あと少し上品に、 まわりの人を尊重すれば、君は勝利 者になる。 汚れと堕落と罪に 人生を送ろうとする人々に はるかに先んじるのだ

この詩を私は少年のときに読んで深い感銘を受けた。これがあなたがたの心を打つようにと願っている。

ダビデは、そのようなことをしなかったのであろう。彼はライオンを素手で殺したが、それは羊を守るためであった。ゴリアテを殺したが、それはイスラエルを救うためであった。素手で

熊を殺したが、これも父の羊を救うためであった。

もしあなたがたが、卑劣ないたずら を企てる仲間の前にいあわせたならば、 彼らがそれを思いとどまるように、特 に何の価値もなく、人格に傷跡を残す だけの行為をやめるように勧めてほし いと思う。

モルモンの言葉を覚えておいでであ ろう。

「この試しの生涯の間賢くせよ。自分の身からあらゆる汚れを払い去れ。情欲を満そうとして願い求めてはならない。むしろ何の誘惑にも負けずに生ける真の神に仕えると言う固い決心をもって願い求めよ。」(モルモン9:28)ヘンリー・バン・ダイクのこの詩はあなたがたの心に残ることであろう。

人は己が目を罪でかすませ 天の光明を疑惑でくもらせ 宮に壁を築いてあなたを閉じ込め 鉄の教条を立ててあなたを入れない 「外なる神にむけて」

あなたがたすばらしい教会の若人は、 単に月並みであってはならない。あな たがたの生活は清く、あらゆる罪の思 いや行ないから離れていなければなら ない。うそや盗みや怒りや不信仰があ ってはならず、正しいことは必ず行な い、性的な罪はどんなときにもどんな ことでも犯してはならない。

あなたがたは善悪を知っている。あなたがたはみな、バプテスマのあとで聖霊を受けた。思いや行ないの良し悪しを人に判断してもらう必要はない。みたまによってそれを知るからである。今、あなたがたは自分の絵を描き、自分の彫像を彫っている。それを立派に仕上げるのは、まさにあなた自身なのである。

神が、愛する若人を祝福されんことを。私は天父があなたがたのまことの友であることを知っている。天父があなたがたに為せと言われることはすべて正しく、あなたがたを祝福し、雄々しく強くするであろう。「またダビデは、すべてそのすることに、てがらを立てた。主が共におられたからである。(Iサムエル18:14)

神があなたがたを祝福されんことを、 イエス・キリストのみ名によりお祈り 申し上げる。アーメン。

罪を犯した人に対する私たちの責任

1974年10月5日(土)総大会の神権部会における説教

ではいるないである。とないのでは、 を表示しているでは、 では様の前に立ち、話すではにでいるには、 では福され、これまでとうの順にでいる。神の権能を授かるということは、 何と光栄ある特権だろうか。これは、 では、一世があるがないでは、は、 を会の中でも最もへんびない地、には、 かもれた少年であるうと、でからない。 が私たちの上にとどまるということは、 ではいる。これは、 を光栄ある特権であるがない。 がは、しいるがあるという。 ではについるがある。 ではについるがある。 ではにである。 であるよと誓さいい、 を守いているを守い、 を守いているができる。 ができる。 ができる。

先日私はある熱意にあふれた帰還宣 教師と話をした。この人は教会員になっ てからまだ5年しかたっていなかった。彼 は次のような興味ある話をしてくれた。

ある避暑地でほかの若者数人と働いていたときのことであった。そこでは皆が思い思いに楽しんでいるように見受けられた。そのような中でこの少年は、他の仲間とは違った生活をしている3人の若者に気がついた。3人はタバコやアルコール、睡眠薬などを飲んでいないようであった。あらゆる角度から見て非常に高い標準に従っており、道徳的にも清いようであった。



第一副管長 N・エルドン・タナー

彼は次のように語った。「私は彼らにひかれるようになり、彼らと話をしてなぜほかの人々と違うのか知れルトラともあると告げ、知恵の言葉をでいることを紹介し、この戒めに『いて説明してくれました。または姦淫してはならない』(出上といってもない。とを話してくれました。」

彼はこうも言った。「私はこの青年たちと非常に親しくなり、彼らが教えてくれたこと、すなわち彼らの生き方が好きになりました。3人は教会について何でも話してくれました。彼らは教会を誇りに思っているように見えましたし、他の若い人々と生き方が異っていることを恥ずかしいと思っている様子はありませんでした。しかし、このキャンプ場に、福音の原則を守っていない教会員が一部いることも教えてくれました。」

私はこれを聞いて、この一部の会員があるべき姿を保たず、誘惑に負け、正しいと知っていながらそれを守るだけの力がなかったことを悲しんだ。もし彼らが十分変えられていて、キリストの福音とその教えを恥としていなか

ったら、彼らもさらにだれか他の人に 良い影響を及ぼし、その生活を変えさ せて、忠実な者に約束された究極の祝 福に備えさせていたであろう。

この友は続けて言った。「3人の内ひとりは、帰還宣教師でした。私がまます興味を抱くようになるのを見てとると、伝道地でしていたように、私に福音を教えてくれました。私は両親に手紙を割て、私が発見したことを知らせました。両親はこれを歓迎せず、大変気分を害してといました。しかし家に帰って悪始終を話したところ、私の生活影響を認めたことを許可してくれました。私はこのことを本当に感謝しています。

この青年が教会に加入したのは弱冠19歳のときであった。彼は続けて、アロン神権を与えられたときの喜びと、主の十字架上の死を記念する聖餐を祝福し、配布する特権に浴したときの感激を述べた。同時にこの儀式の神聖なことに思いを馳せて非常に謙遜になったこと、従って常にふさわしいるように努め、身なりをきちんとし、主がそばにおられるようなつもりで振る舞うようにした、と語った。

彼は祭司であったとき、新しく会員 になる人にバプテスマを施す機会があ った。これは救い主にバプテスマを施 したバプテスマのヨハネの特権と権能 に等しいものであることを知って、彼 は大きな祝福を感じた。彼が語るのを 聞きながら、私は、すべての若人がこ の儀式を執行できることがどれほど重 要なことであり、また大きな特権であ るかを感じ取り、理解してくれればど んなによいだろうか、さらに主が私た ちを神権者としてふさわしい生活を送 り、神権の義務を全力を尽くして遂行 できる者として信頼しておられること を知ることができれば、どんなによい だろうかと考えた。

それからこの青年は、1年後監督と ステーキ部長から伝道に出る面接を受 けて、その備えができていることを示 すことができ、本当にうれしいと思っ た。彼は知恵の言葉をよく守り、安息 日を聖く過ごしていたし、あらゆる意 味で身を清く保ち、女性を尊んでいて、 女性の友だちと接するときは、決して 自分の妹にしてもらいたくないような ことはしていなかったのである。それ で彼は非常に快活で喜びにあふれてい た。こうして主の承認を背に感じなが ら、主の使者として伝道地に行くこと ができたのであった。彼は最初の改宗 者にバプテスマを施し、確認したとき の感激を語ってくれた。

またある男の人にメルケゼデク神権 を授け、長老に聖任するように言われ たときも、非常に謙遜な気持になった、 と述懐した。彼は、主のみ名によって 行なうこのような特権にあずかるには、 どれほどふさわしくなければならない か、また彼が聖任する人も大管長が聖 任する長老と寸分変わらぬ神権者であ ることを知った。彼は非常に謙遜にな り、主に感謝したのであった。

最後に、私たちはもうすぐ結婚します、と言った。そして顔を輝かせながら、私も婚約者も清い状態で神殿に入る資格があり、永遠に結び固められることを感謝しています、と結んだ。

そこで私はこの青年に言った、「神の権能を、言い換えれば神のみ名によって行動する権威を与えられた青年以上に、大きな特権あるいは責任を与えられた人はいません。あなたがたは、これから神殿で聖なる神権によって結ばれます。そして、約束されたすべての祝福と特権を享受することでしょう。

今日教会の中で育った青年の中には、神権が与えられることを当たり前のことを考えるよりは、単なるひとつの権利であると考える人があまりにも多い。知恵の言葉をことが気のまりにも多いであると考えこのになられないますが多事権を受けている若いなおといい。 さればない これはきわめて大切なことである。

また備えのできた、ふさわしい者で

なければ、伝道に出るように召しては

ならない。大企業の幹部で、知識、能力、責任感の面で信頼できる人物かどうか、言い換えれば完全に任せられる人間かどうかわからないのに、その人に会社を代表させ、他社と契約を交わさせるようなことがあるだろうか。

主を代表し、主のみ名によって語る者が同様にふさわしくなければならないことは、当然である。主は、、教もしくなるためには何でもする人をされて、真理の証を上がって、真理の証をがっために立ち上がった。また主は、一度なれるに違いない。また主は、一度なわらを変わした者が道に迷ったときかった場合、子供が道に迷っただろう。

私はすべての若い男性にはっきるとれるというで、私になり、ながないのではでいる。ないではいるなどである。ないではいるでは、まないがでは、まないがでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのである。といいのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのであると、ないのである。

指導者の皆様に強調したい。神権者やこれから神権を持とうとする人とな 接につながっていることは、私たちの責任であり、また特権でもある。私たちは、教えることによって、またよい模範、証によって、彼らが福音を理解し、責任をわきまえるように、また福音の教えに沿って生活することの重要性を認識するように、助けなければならない。

とではない。変わることを期待して若い男性を伝道に出すことも同じである。 人は召される前に必ずふさわしいこと を証明しなければならない。主は資格 のある代表者を求めておられる。

さて、若い男性の皆様にもう一度申し上げたい。あらゆることについて正直であることはきわめて大切である。一部の人は伝道に出たり、神殿に入るために、監督やステーキ部長にうそをついている。そういった人は断じて伝道に出たり神殿に入る特権を受けるにふさわしい人物ではない。主を欺くことは決してできない。

指導者の皆様、伝道に出ようとする 人ときは、その人が主れの ときは、その外期待される ときなるには主から聞き出すると思っているかを聞きるとし、 めなり知にわたかを聞きるし、 のなり知にわたった面接をし、 がふさわしいかどうか、何か罪を召しに がいなどう思ってものかを知しに である。感じておられるかを考え、 その結論に従って行動していただきたい。

資格のないふさわしくない青年を伝道に出すことは、明らかに正しくない。 そのような人は召しのみたまを感じることができない。派遣された地で伝道部長の重荷となり、伝道活動を妨げるだけである。伝道部長にとって宣教師を破門したり、罪のために送還したりすることがどれほど心を痛めることであるかを私は知っている。

もし罪を犯した青年がいれば、そのした青年がいれば、そのした青年を認した大きをした。とれることをはいことを告げない。その数はさいたお話にとなるととなった。といれいないととなった。というといるといるというにはない。またいのののははをしいかにといるにといる。というにといいただきたい。

さて、罪を犯した者に話題を移そう。 すべての伝道部長、ステーキ部長、そ して監督は、あらゆるケースにおいて どのように調査し、取り扱うか、その 方法が示されており、また指導も受け ている。重い罪を犯している者は、進 歩することができない。そして罪の中 に留まっている限り幸福ではない。告 白し、悔い改めるまでその人は捕われ の身である。愛としかるべき処罰をも って正しい処置を受けた人は、後にあ なたの配慮と理解に、また指導力に感 謝するだろう。正しい処置を受ければ、 その人は悔い改めて再び教会の活動に 加わることができる。しかし何らかの 措置は必ず講じられねばならない。

教会の活動に活発に参加していない 人に気をつけなさい。もし何かおかし い、あるいはだれかが罪を犯している ようだと感じれば、愛をもってその人 の所に行き、何があったのかを知る責 任がある。人はあなたの処置に感謝す るだろう。迅速に行動することによっ て、それ以上の罪を防ぐことができる。 問題のある人を救い、囲いの中に連れ 戻すべきである。

兄弟たちよ、聖典と手引きに精通し、 そこに書かれた通り実行し、必要なと きには教会員を処罰していただきたい。 身近な指導者が罪を見てもそれを無視 したり、見逃したり、またはおおい隠 そうとしたりすることは、決して罪を 犯した人にとって親切なことではない。

腐敗をおおい隠すために教会の高職に 任命されているのではない。」(「大会 報告」1880年4月 P.78〔英文〕)

兄弟の皆様、これは非常に強い言葉である。しかもこれは大管長が、神の子言者が語った言葉である。またジョージ・Q・キャノンも次のような重要な声明を残している。「神のみたまは疑いもなく、非常に悲しんでいるので、このような行為を犯した者を見捨てるばかりか、私たちの周囲でこのようなことが行なわれるのを止めなかった者、行為者を責めなかった者をも見捨てられるだろう。」

「この故に、今や神権者皆各々その 義務を覚れ。また己が任命せられたる 務めを全く勤勉に勤むべし。

およそ、怠惰なる者はその他位に居るに値せず、またその義務を覚らず信任さるるに足る行いを示さざる者は、その地位にある値なき者なり。誠に然り、アーメン。(教義と聖約107:99, 100)

教会によって処置される事柄に次のようなものが含まれることが、聖典から明らかである。もちろんこれががてではない。すなわち、婚前交渉、姦淫、同性愛、堕胎、その他の不道道罪、行為、殺会の規則や規律に対するあて、教会の規則や規律に対するあり、数まな反抗、故意に行なわれる背反、妻子に対する残忍なしうち、いわるるを表する。

もしあなたがた指導者が主の勧めに 従って働くなら、主はあなたがたを祝 福し、力づけ、方向を示されるだろう。 そしてあなたがたは主に仕えるときに 大きな喜びを覚えるだろう。ただ、人 が会員権を剝奪されたり、破門された 場合、あなたがたはその人に寛大な愛 を示し、深い関心を寄せて、その人が 生活を立て直し、再び教会に戻れるよ うにあらゆる努力を払う用意があるこ とを知らせなければならない。これは きわめて大切なことである。

教義と聖約に次のように書かれている。 「見よ、およそすでにその罪を悔い 改 める者は赦され、主なるわれもはやこ れを忘るべし。

人罪を悔い改めしや否やは、見よ、彼は自らこれを告白しその罪を捨つべければ、その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし。(教義と聖約58:42,43)

今晩ここをはじめ各所に集まってい る人々に強調したい。私たちの責任は、 人を救うことである。私たち指導者は、 自分にできる範囲のことをすべて行な い、会員を正しい道に導き、信仰を強 く保たせ、次のことを知らせなければ ならない。すなわちそれは私たちが彼 らを愛していることであり、人はすべ て神の目に大いなる存在であることで あり、私たちが天父なる神の霊の子供 であることであり、神がいつも私たち を祝福しようと待っておられることで ある。私たちは両親とその子供によく 接触して、彼らが道徳的に清くあり、 神の王国のふさわしい会員であって、 天の王国に入る備えをしているように 導く責任がある。しかし決して不必要 に異性と親しい間柄になってはならない。

あと数分もすれば、私たちは大管長 から、言い換えれば神の予言者から指 導の言葉を受ける。彼が確かに神の予 言者であることを、また神が実際に生 きておられることを、神の御子イエス・ キリストが世の救い主であって、私た ちが復活し、不死不滅と永遠の生命を 得られるよう、この世に来て命を犠牲 にされたことを証する。私たちは今日 神の予言者、すなわちスペンサー・W キンボール大管長を通して主から導か れている。キンボール大管長と共にみ 業に従事することは、大きな特権であ り、栄誉であり、祝福である。彼に従 いさえすればよい。そうすれば私たち は道を踏みはずすことはない。

私たちが神権をよく行使し、敬い、主の祝福を享受できるように心から祈っている。またロムニー副管長が言われたように、「私たちが高潔である」ことを立証できるよう。イエス・キリストのみ名によって、へりくだって祈り願い求める。アーメン。

高潔

神権者は毅然とした徳高い人になる義務を負っている

親 愛なる神権者の兄弟たち、私はこの話をする機会を大きな栄誉であり同時に大きな責任であると考えている。話す間主の祝福があることを信じている。アロン神権者にもメルケゼデク神権者にも役に立つことを話したい。私は高潔ということについて話したい。

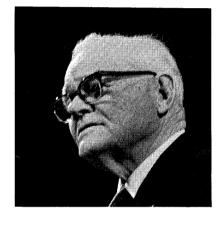
ある定義によれば、高潔とは「正しい心、正直、誠実などの健全な道徳の 原則を守っている状態」である。

正直、高徳、廉潔などの同義語と区別してある辞書は、次のように書いている。「高潔は不朽の高徳性、中でも信頼に答えるという特質を指す。」

世界が現在高潔な人を切実に必要と していることは、多くの言葉を費やす までもない。このことは、あらゆる出 版物、放送、その他あらゆる視聴覚メ ディアに明らかである。

A・P・スタンレーはこう言っている。「完全に信頼できる高潔な人はいないのか。人が崩れるときにも毅然として立つ人、忠実な真実の友、公正に、恐れることなく忠告を与える人。騎士道精神にあふれた立派な相手はいないのか。こういった人は、万世難攻不落の要塞にも比較される存在である。」

現在私たちの文明そのものが死の危 険にさらされている。この文明を救い



第二副管長 マリオン・G・ロムニー

出すには、高潔な人が必要である。

この途方もない仕事を果たすために 主は神権者を召された。これはほかで もないあなたがたのことであり、私の ことである。アロン神権者とメルケゼ デク神権者の両方を含むすべての仲間 の神権者がこの任に当たるのである。

主はかつて人に与えられたものの中でも最高の信頼を私たちに託された。私たちは主の信頼を裏切ってはならない。私たちは高潔の徳を持った青年男子にならなければならない。私たちが昇栄にあずかれるかどうかは、どんな危険に出会っても、どんな状況におかれても、主が託された信頼に忠実に答えられるかどうかにかかっている。(「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」3:380参照)

予言者ジョセフ・スミスは、永遠の 生命を得る条件には完全に高潔である ことが含まれる、と教えている。彼は 次のように言っている。

「人がキリストに信仰を抱き、罪を悔い改めて、罪の赦しのバプテスマを受け、聖霊を受けたなら、……続いて神の前にへりくだり、義に飢えかわくようにその人を導かなければならない。そして神の口から出る一言一言によって生きるように指導しなければならない。もし人がそうするなら、主は間もなく、子よ、あなたは昇栄を得るだろう、と言われるに違いない。」

しかしこの約束が実現するのは、「主がその人を徹底的に試し、どんな危険を冒しても主に仕える決意のあることを見届けた」後のことである。(「教会歴史」3:380)

私たちは、執事から使徒にいたるまで神権の召しを受けた指導者の中に、 上記の高潔の徳をそなえた模範を見る ことができる。

例えばキンボール大管長がいる。長年大管長は高潔の徳を示す模範であった。彼が生命の危険を賭しても主から託された神聖な信頼に答えることは、だれも疑わないだろう。

タナー副管長も同様である。事実、 実業界と政界で傑出した経歴を持つ彼 は、その間の業績が実に周到な用意と 勇気に基づくものなので、彼の同僚は タナー副管長のことを「高潔の人」と 呼んでいる。

ここでこの高潔、あるいは同義語である正直、誠実の徳に関係のある事例を2、3あげてみよう。まずアロン神権者の皆様にあてはまる次の話を紹介しよう。

「4人の末日聖徒の少年が、ユタのある町から遠出の旅行に出かけた。4人は高等学校の最終学年の1年間、この旅行のためにお金をためていた。今や卒業式も終わったので、それぞれのスを自動車のトランクに入れ、心配する親や羨望の目で見送る夕州境を越え他の州に入ったとき、4人はお互いに祝福し合った。彼らは車を地がどんなものか見ようと外に出てみた。この若い旅行者たちはそれぞれ一種のわくした興奮を覚え、冒険心から危険な考えを持つにいたった。

彼らは1日おきに両親に葉書を出して居所を知らせ、何か困ったことがあった場合、受取人払いで電報を打つことを約束していた。4人の中のひとりは、自分ひとりで行動し、一々することに前もってだれかの許可を得ないでもすむのは、本当にいい気持だ、と言った。するともうひとりが、僕たちは旅に慣れた者のようにふるまうべきであって、田舎の少年が初めて家を離れたような印象を与えてはならない、と主張した。この少年は続けて、そのた

めにはこの冒険旅行の間モルモンであることをすっかり忘れようと提案した。『どうして』と残りの3人が理由をはかりかねてたずねると、今こそ厳しい枠をゆるめて、モルモン教会外の他の人々が経験している楽しいことをちょっと試してみる好機だ、というのであった。『とにかく、どうということはないじゃないか。ここではだれも僕たちを知らないし、僕たちが教会員であることをとやかく言う人はいないんだ。』

新しい経験をしているのだという興奮が4人の判断に影響を与え、全員が、ではやってみようじゃないかということになった。彼らは外に対して、自分たちは東部から短期間ユタに来ている学生だと称することにした。自動車のプレートがユタになっているので、このような説明が必要だったのである。

第1日目の夜、彼らは有名な行楽地 に着いたので、そのそばにキャンプを 張ることにした。夕食のあと、4人は 夜の楽しみに大きなホテルに入って行 った。そこに入るとすぐに少年たちの リーダー格が、今こそ長い間厳しい両 親や教師に禁じられていたことを試し てみるときだ、と提案した。最初に少 年たちの目にとまったものは、ラウン ジのはしにかかっている大きなネオン サインであった。そこには、『バー。 ビール、カクテルあります』と書かれ ていた。これこそ『ちょっとばかり罪 を犯す』格好の第一歩であると考えて、 4人はバーに入りビールを1杯ずつ注 文することにした。しかし、けばけばし い照明に照らされたバーに入り、魅惑 的なアルコール飲料のびんがずらっと 並んでいるのを見たとき、彼らは緊張 した。4人を代表して注文しようとし た少年は最初声が出なくて、つばをの み込んでようやく聞き取れるような声 で『ビール4杯下さい』と言ったのだ った。

ビールそのものは大して心地のよい 気分を作り出しはしなかったが、雰囲 気と興奮がそれを補って余りあった。 だんだん大胆になり、次の冒険のこと を話し始めた。話はどんどん調子づい ていったが、そのとき急にきちんとし た身なりの人がバーに入ってきて、4 人がすわっているテーブルに向かって 歩いてきた。この見知らぬ人の表情と 一定した歩調で歩いてくる様子に、4 人はすっかり色を失ってしまった。

この男の人は、少年たちのすわって いるテーブルの所に来ると、4人の中 のひとりに手を伸ばして、『失礼です が、あなたはユタ州のジョージ・レッ ドフォードさんの息子さんではありま せんか。』 少年は恐ろしさのあまり口 がきけなかった。ビールの入ったグラ スを持つ指は凍ったようになり、ふる えるような声で答えた。『はい、そう です。』すると見知らぬ紳士は言った。 『君たちがホテルのロビーに入ってき たときから、君だとわかったよ。私は ヘンリー・ポールセンと言って、君の お父さんが働いている会社の副社長で す。私は去年の冬ホテル・ユタで会社 の夕食のときに、君とお母さんに会っ ています。私は、君がモルモンの少年 であることをどう思うかと別の幹部社 員から聞かれて、モルモンの神権について説明していた様子を一度も忘れたことがありません。正直言って、君がバーの方へ歩いていくのを見て少し驚きました。やはりモルモン教徒であってもそうでなくても、少年たちは家を離れるとやはり同じようにふるまうものなんですね。』

この少年たちは説教壇からは決して 聞かれない説教に接したのであった。 彼らはすっかり意気そそうし、恥ずか しさのあまりうなだれてしまった。4 人は半分飲み残したグラスをあとにロ



ビーを通ってホテルを出たが、皆の視 線を浴びているような気がしてならな かった。キャンプを張った所まで帰る 道が暗かったのはせめてもの幸いだっ た。『だめだったな。』 教会員である ことを伏せておこうと言い出した少年 が、緊張をほぐそうとして言った。そ れに対して、男の人に話しかけられた 少年が答えた。『だけど、僕たちにま だ良識が残っているとすれば、この経験 を最良の教訓にすることができるよ。』 ではここでもうひとつの事例をあげ てみよう。それは故チャールズ・W・ ニブレー副管長が語るジョセフ・F・ スミス大管長の経験である。皆さんの 中の若い長老たちにとってためになる

話であると思う。

故ジョセフ・フィールディング・ス ミス大管長の父親であり、同じく教会 の大管長になったジョセフ・F・スミ スについて、ニブレー兄弟は次のよう に語っている。スミス大管長から聞い た話の中で彼の勇気と忠誠を表わすも のに次のような逸話がある。それは18 57年の秋に、ハワイ諸島のサンドイッ チ島での伝道を終えて帰るときのこと であった。スミス大管長はロサンゼル スを経由して、当時『南のルート』と 呼ばれていた道を通って帰還した。同 じ年にジョンストンの軍隊がユタに向 かっており、自然の勢いとして、モル モン教徒に対する悪感情が高まり、一 種の興奮状態が感じられた頃であった。 彼を含む小さな幌馬車隊が南部カリフ ォルニアで少し歩を進めて野営したと ころ、反モルモン運動の荒くれ共が馬

に乗ってキャンプ地におしかけ、呪った り、ののしったり、出会い次第「モルモ ン教徒」は皆殺してやるとおどしていた。 ジョセフ・F・スミスはまずこの襲撃 者に直面しなければならなかった。あ る兄弟たちは、彼らが来ると聞くと、 用心深く峡谷を下って姿をかくし、彼 らが過ぎ去るのを待った。これらの男 たちが馬に乗ってきたときジョセフ・ F・スミスは、キャンプから少し離れ た所でキャンプファイヤーのたき木を 集めていた。彼も男たちを見たとき最 初、ほかの兄弟たちと同じように、木 木の間にかくれる所を捜し、逃げよう とした。すると次のような考えが心に 起こった、「私はなぜ彼らの前から逃 げなければならないのだろうか。」 そ う心に考えて、彼は大胆に腕に木を一 杯かかえながらキャンプファイヤーの 方へ歩いて行った。彼が木を地面に置 こうとすると、拳銃を若い長老に向け ながら、酔っぱらった悪漢にしか口に できないような呪いの言葉を口にし、 かたっぱしから「モルモン」を滅ぼし てやるとわめいていた暴漢の一人が、 大声で「お前もモルモンか」と荒々し く聞いた。

一瞬のためらいも見せず、悪漢の目を見つめながら、ジョセフ・F・スミスは大胆に答えた、「そうだ。正真正銘徹底したモルモン教徒だ。」

大胆に、何の恐れる様子もなく答え たので、荒くれ男は武器をおさめ、い ささかあわててこの宣教師の腕をとっ てこう言った。

『お前は本当に気持のいい男だ。若

いの、握手しよう。自分の信条をはっきり言える男に会えて嬉しいよ。』(ジョセフ・F・スミス「福音の教義」第 1巻P.6)

アブラハム・リンカーンは、「分かれ た家は立つことができない」という句 でよく知られる演説をして、彼の高い 人格を人々に示した。ジョン・ウェス レー・ヒルは、その著「神の人、アブ ラハム・リンカーン」の中で次のよう に書いている。「リンカーンは合衆国 上院議員の指名を受けて演説の草稿を 書いたが、それは自主独立の精神と一 度定めた目的はあくまで追求する態度 をよく示していた。……この演説は『分 かれた家は立つことができない』とい う句でよく知られている。その中には、 『半分奴隷で半分自由』の状態では合 衆国は存続し得ないという歴史的な宣 言が含まれていた。リンカーンは友人 のジェシー・K・デュボイスに次のよ うに語っている。

『私は分かれた家は立つことができないということについて書いた部分をあなたに読んで聞かせなかった。それはあなたが必ずその部分を変えるよう求めることを知っていたからである。私は決して変えないと心に決めていた。意識してあの句を加えたのである。そしてことによってはあの句と共に滅んでもよいと考えていた。……あの句を除いて勝つよりは、演説にあの句をもり込んで敗れる方がよかったのである。』(Abraham Lincoln—Man of God「神の人、アブラハム・リンカーン」

ニューヨーク、ロンドン、G・P・プ

リンカーンにとってあの「半分奴隷で半分自由」という表現を演説の中に 残すには実に大きな勇気が必要であった。彼は野心を抱いていた。上院議 員になることによって大統領の地位に 近づくことが可能であった。しかし当 時の政界の空気は、まだ彼の見解を受 け入れる用意ができていなかった。問 題の言葉を含めれば、上院議員の席は

ットナムズ・サンズ 1927年P.151)

彼の手に入りそうにもなかった。そして事実リンカーンは敗れた。このことを彼はよく知っていた。しかしそれでも自分の確信と一致した行動をとる勇気をもっていた。彼の進路は上院の門をくぐらなかったが、幸い後に大統領の地位を通過することになったのである。

J・ルーベン・クラーク・ジュニア 副管長も高潔の人であった。まだ若い ときに短期間ユタ州シーダーシティー にあるステート・ノーマルカレッジを 管理したことがあった。彼はこの大学 に並々ならぬ関心を持つにいたった。 「2年後……大学から要請された資金 を提供するよう州議会の議員たちに働 きかけて欲しいと頼まれた。

それに対し彼は、手紙で10万ドルもの要請を支持することはできないと、 きわめて率直に説明した。

彼はこう言っていた。率直に言って あなたがたはあまりにも多額の金額を 求めています。

私はこの件を慎重に検討しましたが、あなたがたが要求している支出金を認めるよう各代表者に働きかけるこ

とは、どう考えてもできない相談であ ります。……

10万ドルの考えを捨てて、5万4千ドルを目標にするというのなら、非力ながら最善の協力を惜しまないつもりです。しかし、あくまで高額を目差すというのなら、私は黙ってみていましょう。これは本気で申し上げているのです。

この手紙に見られる率直さは、クラーク副管長の長い経歴を通じて、人と交渉するときの顕著な特徴であった。彼の言葉にはお世辞が全く見られなかったが、彼の率直で誠実な態度を知る人々は、クラーク副管長を非常に信頼したのであった。彼の口から出る言葉は本当に心でそう考えていることであると信じることができたからである。(デビッド・H・ヤーン・ジュニア Young Ruben 「若きルーベン」 ブリガム・ヤング大学出版部、P.113、114)

神権者の皆さん、もし私たちが皆キンボール大管長やナサン・エルドン・タナー、ジョセフ・F・スミス、アブラハム・リンカーン、あるいはJ・ルーベン・クラーク・ジュニアのように勇気のある、高潔な人格をそなえていればどんなにすばらしいことであろうか。主は私たち主の神権を持つ者にそれを期待しておられる。

私たちがこの高潔という大切な徳を よく考え、身につけることができるよ う、神の助けを求め、へりくだってイ エス・キリストのみ名により祈りを捧 げるものである。アーメン。

山の上のあかり

若いアロン神権者を訓練するアロン神権指導者への呼びかけ

私 は教会の各地で若いアロン神権者に会い、彼らを観察することにより強い感銘を受け、彼らの姿に驚嘆している。私は、ちょうどあなたがたのような年齢の人々で、著しく献身的な若者がどこにでもいることを発見した。彼らは、神の息子として寄せられた信頼に答えるために何でもする人であり、神のみ名を立派に尊厳をもって引き受けるためには何ものをもいとわない人であり、期待される模範となり、期待される行動をするためにはどんな犠牲をも払う人である。

私は少し前外国のあるステーキ部大会に出席していて、そのような青年に出会った。土曜の午後ステーキ部長会との会合が終わろうとしていたときであった。部屋のドアをノックする音が聞こえた。ステーキ部長がドアを開け、一通の封書を受け取った。手紙の宛名は私になっており、伝道に出るために面接を受ける青年を紹介するものだった。

ステーキ部長会との会合が終わるとすぐに私はその青年を部屋に招き入れた。彼の風さいを見て私は驚いた。これが伝道に行くよう推薦された人であるとはどうしても信じられなかった。 洋服はよれよれになっており、ひげが



管理監督会第一副監督 H・バーク・ピーターソン

伸びていた。さらにきついタバコのに おいがし、手には何かペーパーバック の本を丸めて持っていた。この人に主 の業が務まるのだろうか、私はそう思 った。

ところが次の瞬間であった。彼は私の方へ歩いてきて私と握手した。その青年の目を見て、私は電撃に打たれたように強い衝撃を受けた。彼は普通の若者とは違っていたのだ。あの外見にもかかわらず、特別な人物であった。私たちはすわった。そして彼は自分のことについて話し始めた。まず最初に身なりがきちんとしていないこととあわててやって来たことをわびた。家から13時間バスに乗って来て、たった今下車したばかりであると言った。そ

してもしよければまた1時間後にバスに乗って、再び13時間バスに揺られて家に帰りたい、というのであった。

私はそれを聞いて、ことのつじつま を合わせることができた。洋服がよれ よれで、ひげが伸びている理由がわか った。タバコのにおいがしたのも彼の せいではなくて、バスに長時間閉じ込 められていたためであった。またもう ひとつのことを発見した。彼が手にし ていたあのペーパーバックの本はモル モン経だった。それも何度も何度も読 まれよく活用された、何物にも替えが たいような貴重な代物だったのである。 彼は続いて、3年前に若い教会員と知 り合いになったことがきっかけで教会 に加わったことを説明した。彼には、 若い教会員の姿が特別なものに映った らしい。ところが両親は教会に入りた いなら入ってもよいと許可を与えたも のの、会員になったらもうこの家に帰 ってこなくてもよい、もう息子として 一緒に住ませるわけにはいかない、と 警告した。

彼がバプテスマを受けると、父親は その言葉どおり、裏口を開けてもう二 度と帰ってくるな、と言ったのであっ た。青年は家に帰らなかった。友だち の所に行って一緒に住んだ。そして過去3年間働きながら学校へ通い、伝道に出るために2千ドル(約60万円)蓄えたのであった。「お願いです、伝道に行かせて下さい。」彼は言った。ほかの何をおいても彼は伝道に出たかったのである。みたまは「よろしい」と教えていた。このようにして彼は主の僕として全地をかけめぐる1万8千人の雄々しい軍団に加わったのである。

神の神権者としてなすべきことを行なうのに、何のちゅうちょもしない人々がたくさんいる。まっすぐな道からそらせようとする人々に囲まれていても、正しいことを、期待されていることを着実にできる人が大勢いる。伝道することは正しいことであると認め、何とか方法を探り出して宣教師になってめる。

新しい学期が始まったばかりである。 残念ながら皆さんの中には、今年度の 学校生活の中で、たとえ間違っていて も皆のするようにしてしまう人が何人 か出るだろう。間違ったことを正しい 方法でできるわけはないことを、理解 できない人も何人かいるだろう。

若い兄弟の皆さん、私たちは皆現在 全地をおおっている壮大な戦いの戦列 に加わっているのである。神権を持つ 兄弟たちとサタンの軍団の戦いに。戦 いは正に今起こっている。毎日何人も の人が霊的に傷ついたり、死んだりし ている。私たちの死傷者数を見るとが く然とすることだろう。戦いで生き残 るのはいつも強い者であることは、注 目すべきことである。

神権のために戦う本当の戦士を見分 けるのは、それほどむずかしいことで はない。あらゆる所でそういう戦士に 出会うからである。彼は、日曜日に映 画に行こうと誘われたり、週日に低俗 な映画を見に行こうと誘われたりした ときに、僕は行かないと断われる人で ある。(そういった映画を見ようとい う誘いにかかってはならないことを彼 は知っている。) またいかなるときであ ろうとわいせつな本や雑誌、写真を見 たり、話を聞いたりしない人である。 日曜日に釣や水泳、ボート乗りに誘わ れても断われる人である。また人が「ち ょっとのんでごらん」とビールやタバ コをほんの1杯あるいは1本勧めても、 「僕はのみません」と言える人である。 この勇気のある戦士は同時に人が行か ないと言っても、僕は行くと言って神 権会、日曜学校、聖餐会、セミナリー、 インスティテュートに出席し、人がし たくないと言っても什分の一を納め、 毎日祈りを捧げる人である。そして人 が行かないと言っても伝道に出る人で ある。

残念なことであるが、私たちは同時 にサタンのいまわしい破壊の業を助け る人を毎日のようにそこここで見かけ るだろう。彼らもすぐ見分けることが できる。彼らは勇気に欠けている。何 か正しくないことに直面して断わらな ければならないときに、精神力が不足 するのである。

しばらく前、そう、この春の学期末 のことであるが、ここ米国西部のある 町である高等学校の卒業式が行なわれ、 卒業生のためにあちこちでお祝いのパ ーティーが開かれた。しかしその中に 悪質なかれた。それは本当に思いパーティーがひとつまぎれいパーティーがひとつまぎれいので で行なわれた。それは本当においれーティーであった。ある家でわいた。 をは露知らず、末日聖徒が始まって ととは露知らず、末日聖が始まっている場面が映し出されると、末日聖 徒の一部は立ち上がって家とどまっている者もいた。

家を出ようとした者は、戸口の所で 着いたばかりの友人に出会い、映画の 中味を説明して中に入らないように勧 めた。それで一部の者は一緒に立ち去 ったが、心の弱い者はそのまま入って、 心を汚され、サタンの力に影響される のにまかせてしまったのである。

主の前に正しくあるために必要なことは何でもする人が確かに存在する。 神権を持つことには特別で重要な意味があり、尊重すべきことであると心から信じている人が多数いる。

兄弟の皆さん、主から認められるためにしなければならないことは、すべてそれだけの価値があると申し上げたい。正しいことをするのにからかわれたり、笑われたりすることがつらいこ



とを承知でこう申し上げるのである。 皆と反対のことをしたり、友だちと違ったふるまいをすることは人から歓迎されないことが多い。あなたがた若い兄弟たちがこの難関に出会ったときに、主があなたがたを祝福し、力づけて下さるように祈っている。

またワード部の監督会や支部長会の皆さんに申しあげたい。自分の家庭を除けば、最も大きな、そして重要な神権の責任は、アロン神権者に対するものであると信じている人々がたくさんいる。兄弟たちよ、何のちゅうちょもしないですべきことをし、教会における奉仕の時間の大部分をワード部または支部の若い人々と共に過ごすことにあてている人々があなたがたの中にい

る。皆さんも私たちと同様、若い人々の中にとけ込んでいくときに彼らが特別な活気を持っており、霊的に躍動していて、アンモンの2千人の若い息子たちに比較できる力をそなえていることがわかるだろう。私たちは週末毎に教会の数多くのスデーキ部でこれらの若人を見ることができる。

同時に各地で監督会の立派な兄弟たちを目にすることであろう。彼らは管理人としての自分の責任をわきまえて、メルケゼデク神権定員会の指導者にその指導者としての召しを遂行させ、彼らが率先してすべての家庭に神権者を送るように導いている。私たちはこの活動をホームティーチングと呼んでいる。これは神権が活動している姿であ

る。

監督会は、主のみたまによってアロン神権定員会の会長会を選んでいる。 彼らは教義と聖約9章を読んで理解している。慎重に考慮した後に、定員会の役員の名前を主の前に出して承認を求め、それから両親または少年たちに話すのである。

そして監督会の兄弟たちは、定員会 会長会に召される若い兄弟をていねい に正しく召す。決して電話で召したり、 廊下や玄関先でしないで、ワード部の アロン神権会長として、監督室で召す のである。

このようにする監督会は、正しく召され訓練されたアロン神権定員会会長会の経験が少年の人生にとって、また教会の将来にとってどんな意味を持つかを見通せる人々である。管理役員、ワード部監督会から正しく神権の原則を教えられている今の若いメルケゼデク神権の指導者が、10年、20年後にどのような存在になっているかを考えていただきたい。

こういった監督会はすぐ見分けることができる。すばらしい若者を毎週神権の原則に基づいて正しく指導しているからである。彼らは日曜日に必ずアロン神権定員会の会合に出席している。そして神権会の時間には、アロン神権定員会の会長を「会長さん」と呼ぶのである。

主から託された第一の責任がアロン 神権に関するものであることをわきま えている監督会は、例外なく一見してすぐわかる。彼らは万一他のことができなくても、アロン神権者と若い女性に関する仕事がとどこおってはならないことを知っている。この責任は必ず果たさなければならないのである。彼らはこの神から信頼を託されて行なう管理人の責任にどれくらい応じ、果たしたかを主に答える日が来ることを知っている。

兄弟たちよ、ステーキ部のアロン神 権委員会で委員長の責任にあることが 何を意味するか知っているステーキ部 長も、すぐに見分けがつく。このよ うなステーキ部長の行動を観察するこ とも興味深いことである。ステーキ部 長はこの委員会の委員長をつとめるが、 副ステーキ部長や高等評議員の仕事を 取り上げるわけではない。自分が委員 長になることによってそれだけ委員会 の仕事に関心を寄せることができるの である。関心を抱くようになるだけで はなく、ステーキ部委員会の他の立派 な兄弟たちと手をたずさえて働くこと によって、アロン神権プログラムによ く参加するようになるのである。

彼は、父親が息子を導くのを助けるには、メルケゼデク神権定員会の指導者が手を 者とアロン神権定員会の指導者が手を つながなければならないことを知って いる人である。また、長老定員会会長 と執事定員会会長、そして父親を正し く訓練し、彼らに動機を与えてやれば、 決してサタンとの戦いに負けることの ないチームとなって、少年の人生を守 ることも知っている人である。

このようなステーキ部長は、若い女性も若い男性同様大切な存在であって 救いを受けなければならないことを知っている。そこでステーキ部長は、ステーキ部の若い女性ディレクターに、いつでも直接会う用意があることと、自分が若い女性を対象としたプログラムの直接の責任者であることを知らせるのである。

兄弟たちよ、今私たちが行なってい ることをもっと立派に果たし、今の自 分よりももっとよい人になる方法がた 、くさんあることを考えていただきたい。 私たちは老若を問わず神権を持ってい るが、それは、もし救い主が私たちと 同じ立場にあれば果たすと思われる同 じ方法で義務を遂行するための権能で ある。私たちの持つ権能は、主が行使 されるような態度で使うためのもので ある。主ならこのような執事定員会会 長になられるだろうと思われる会長に、 また教師になるのである。また祭司に なって、主がとられるような態度で伝 道に出る準備をするのである。同様に 救い主が同じ職に召され、責任を持た れればこのようにされるだろうという 姿をめざして、長老定員会会長、監督、 副監督、またはステーキ部長の召しを 果たすのである。

さらに大切なことは、私たちの神権 が救い主ならこのような父親、息子、 または兄弟になられるだろうと思われ る存在になるための権能である、ということである。

兄弟の皆さん、私たちが神権者として立派に責任を果たせるかどうかは、私たちの生活のあり方にかかっていることを考えていただきたい。私たちがみたまによって導かれるなら、私たちが持っている神権の権能は、神権の力となり、その力は生活をよい方向に向かわせ、少年少女、その両親の生活の中に奇跡を起こさせるであろう。

争いが絶えず、問題の多いこの世界に、大きな人物が、平和を作り出す人人が現われるだろう。荒れた海を鎮めることのできる人が出現するだろう。立派な生活を営み、山の上のあかりのような、また嵐の日の燈台のような存在になる人が出るだろう。人が力と導きを求めて慕う人物が出るだろう。あなたがたは周囲の人に対してそのような希望の光になれるのである。特にあなたがたのすぐ身近な人々に対して。

最も明るい光、最も澄んだ信号は、 最も清い器から出ることを覚えていた だきたい。主の導きと力をいただいて、 私たちが自分の生活を洗い清め純粋な ものとすることができるように祈って いる。私の兄弟たちよ、神が確かに生 きておられることを証したい。私は神 が天にいますことを知っている。神か らいただいた神権を尊重できるよう、 神の祝福をイエス・キリストのみ名に より願い求める。アーメン。

人々をわれに導き、父の御国に休まんことなり(教義と聖約15:6)



私たちの宗教の「かなめ石」

岡町ワード部 牧瀬 十二郎

「モルモン経は地上で最も正確な書物であり、私たち の宗教のかなめ石であって人がその教えに従って最も神 に近づくことのできる書物である。」

(ジョセフ・スミス)

人は自分の好きなこと、関心や興味のあること、また重要視していることなどをしているとき、まるで別人のように生き生きしているものです。

私にとって「モルモン経」についてその真実性を証するときが正にそのときと言えましょう。このとき私の心は熱く燃え、口は雄弁になります。「モルモン経」についての知識をあらいざらい使ってあらゆる角度から証したり、話したり、レッスンしたりすることは大きな喜びです。そして最後になって「モルモン経は真実神様のみ言葉であります。また私たち末日聖徒イエス・キリスト教会の『かなめ石』であります」と証するとき、言葉に尽くし難い感動をおぼえるのです。この確かな証を私に人生の宝として恵まれた天父なる神様にへりだって感謝します。

私にとって「モルモン経」についての証は、単にモルモン経の真実性についての証というだけでなく、モルモン教徒としての宗教生活の「かなめ石」として私の人生のあらゆる部分を調和させるために不可欠のものですし、指針だとも言えます。そしてこの証は私の信仰のあり方に比例して成長して現在の確固としたものになったことは明白です。「悔改め」が十分にできないとき、戒めに不承不承従っているとき、現在の証はありませんでした。私が現在の証を得る契機となったのは、バプテスマ後しばらくして大神権を受け、末日聖徒イエス・キリスト教会にすべてを捧げ、神の王国建設に殉じようと決心したときでした。この決意

は大きな恵みでした。心に平安が訪れ、この世のあらゆる 面に対して心が動じなくなり道が見えてきました。聖典に ついても、末日聖徒の教義についても知識は質量ともに拡 大され聖霊の証があったと信じています。

ある日「モルモン経」のアルマ書を読んでいて、今まで何回か読んでいた個所なのに初めて読んだとしか思えない深い感動をおぼえ、夜を徹して読んでしまったことがありました。ただ聖典を読むだけでなく末日聖徒の教義を体系的に学び、モルモンの神権者らしくならなければならないという自覚と、この「モルモン経」という書物は重大なことを秘めているという初めての発見でした。それから「モルモン経」についての関心が心からのものとなりました。

宣教師が初めて「モルモン経」という書物の起源を話し 証をしたときはただ夢のようで、まだ自分とは無縁のこと でした。それはこの末日聖徒イエス・キリスト教会が唯一 真の神の教会であるという証が確かでなかったことにもな ります。それまでキリスト教と言えばカトリックとプロテ スタントで、またその教えは聖書と形式化された常識から 一歩も抜けでていないと考えていた私は、宣教師を通じて 宣べられたメッセージが大きな疑問となって渦まくのをお ぼえました。

この日の出来事が今までの疑いの心をうそのように吹き 飛ばしてくれたのです。さらに「モルモン経」についての 証は、各神権組織や補助組織でのレッスン、活動での強い 自信となり、神の代理人にふさわしい確信を持つことがで きたと思います。この教えを宣べるため教会のどんな責任 でも喜んで引き受けようという決意にもなり、日常生活の 物の見方、考え方など末日聖徒としての私のすべての面に このモルモン経の教えは波及してきました。進学、就職、 結婚と末日聖徒の若人が雄々しくなるための3つの関門を 無事通過した現在を省みて、この「モルモン経」こそ私た ち末日聖徒イエス・キリスト教会の教えの「かなめ石」で あるとはっきり証できます。人はだれでもモロナイの言葉 (モロナイ書第10章4節)に従えばこの書物の真実性に気 がつきます。またこの書物の教えに従えばこの末日聖徒イ エス・キリスト教会は真の神の教会であることがわかるで しょう。末日聖徒イエス・キリスト教会の教えに従えば私 たちは永遠の生命を受けることも証できます。この証は私 たちの地上の生活を豊かにするための原動力なのです。

主のみ名により証します。アーメン。



名瀬支部 築地 恭代

多くの兄弟姉妹の前にお話できますことを大変うれしく 思っております。

私の父母は中国大陸の厳しい気候の中で次々と子供たちを失い、私も10歳の年に肺結核にかかりました。死を見る日日の暮しは、「イエス・キリスト伝」という一冊の古い本により、神を求める心を育ててくれました。そして16歳の頃はカトリック教会に通うのが大好きな少女になっていました。その間も病いは一進一退を続け、病いが休息に入ると私は張り切って学校に通い、病いが活動しだすと急いで床に伏し、病魔が休息に入るのを待ち続けました。幾度、裏庭の丘に登り、太平洋に向かって神を呼び、古えの奇跡を私の上に、と願い求めたことでしょう。西の山々に沈む夕日を見入っては奇跡のない神を想い泣いたことでしょう。

それでも医学の進歩は25歳の春、片肺切除により、私に 希望をよみがえらせてくれました。

優しい主人との出会い、玉のように美しい長男の誕生に、私は神への感謝に満ちあふれ、33日目にはカトリック教会で長男の洗礼を受ける計画をいたしました。不思議にその朝長男は急に発熱し、またそれがきっかけで主人の強い反対に逢い、以後再び子供たちを教会に導くことができなくなりました。幸福な家庭の中で、建築士という生き甲斐のある仕事の中で、私は教会を離れ、子供たちにも寝る前に祈るだけの神を教えるようになっていました。

長男が10歳を迎えたある日、私は喀血し子供たちが母の 死を見る日が来た夢を見ました。その朝以来、果たして子供 たちは神を想い、耐えながら生きて希望を持ち続けて行け るだろうかと不安を覚えるようになりました。

そうした昨年の9月の初め、実家の父が医術の及ばない病いに倒れ、私の家で死ぬまでの4ヵ月間看ることになりました。謙虚ですべてのことに決断が早く、村中の人たちの

支えになっていた父が、死の前に弱く、不安の中で苦しむ のを見るにつけ、私は神を求めました。

天理教の方々が御自分の仕事を捨てて父のため、朝夕幾ヵ月も通って父の病いの癒しを、救霊のために力を尽くして下さいました。父は私の神の力ではなく、天理教の方々の神により、平安を得、昇天致しました。私は自分が今までどんなに神に対して力の尽くし方が足りなかったかを知り、恥ずかしく、父に対し神に対し、すまなく思いました。

それからの私は神を求めて、機会あるごとに様々な宗教の教理の本を求め、読みました。日本の古い神々の古事記を読み、聖書を読みました。こうして落着きのない不安な日が続くのに、私は身をこがすような想いを得る教会を捜し得ず、またもとの神と私という、一対一の生活に帰ろうかと考えていました。

ある日、事務所の机の上に「ジョセフ・スミス」の証というパンフレットを見つけました。主人が子供たちを無料英会話に連れて行った小さい教会でもらってきたとのことでした。 私はすぐに教理の本があれば買いたいと教会に電話をかけ、タクシーを飛ばしました。モルモン経と教義と聖約を手にし、夜も昼も読み続けました。

旧約の神、新約の神、ジョセフ・スミスを通した末日の神が、同じ生きておられる永遠の神であり、イエス・キリストが私たち人類と天父の仲に立ち、全人類のためどんな償いをされたか。イエス・キリストが確かに天父の御子であられること、また天の諸々のことと地にある諸々の霊現象が何であるのか、なぜ多くの宗教が生まれたのかをはっきりと知ることができました。

私の家族は、主人の弟と私の妹が結婚していること、私と妹が仕事を持っていて忙しいことがあって、二家族が一緒に住み、助け合って暮してきました。

神のことでは、すべてを知り尽くし愛し合っているつもりの主人との間でさえ、一致をみることのできない経験を持っていましたので、家族の中に不和をもたらすのを恐れました。しかし、妹は父の死により、神を求めていましたので、まず妹に話し、そして主人に話しました。

いよいよ宣教師の訪問を家族で受けることになりました。神は私たち二家族を限りなく愛して下さいました。神のことには心を寄せたことのない兄弟ふたりの心を広げて下さいました。そして5月18日、二家族6人が揃って太平洋の海で、たくさんの兄弟姉妹の祈りの中で、心から悔い改め、バプテスマを受けました。また10月24日には、妹の息子が8歳を迎え、バプテスマを受けました。

それから6ヵ月間、私たちの家族が揃ってこの末日の世に回復された真の神の教会に加えられましたことを日々感謝しています。今私は、天の王国が地球に降りる準備が朝夕進んでいることを感じとることができます。天の神権の鍵は確かにこの教会にあり、イエス・キリストの権能により、永遠の結婚、結び固め、また祖先の、何よりも私たちを生み愛し育ててくれた実父のバプテスマが神殿の中で確実に行なわれ、それは天でも認められること、そして父が、霊界で今のこの時間にもイエスの福音を受け入れてくれ、私が父と逢い喜び合う日も、真近いことを信じることができます。神の前においてすべての人類が永遠の中で平等であるのはすばらしいことです。

永遠の生命の中で、日々私たち家族が自由に生きることができ、また限りない祝福と平安の中に暮らすことができることを感謝しています。寂しい、悲しい私ひとりの神ではなく、全人類を愛し、償い、救われる神を求め得たことを。それは、天父の御独り子イエス・キリストであることを証いたします。神が、今も全世界の人々に導き教えるよう選びたもうた予言者スペンサー・W・キンボールの声に従順に従うことを誓います。この喜びあふれる福音が北の果てまでも届きますように、ふたりの息子が神を見つめて進み、伝道の召しにあずかることができますように、また正義を愛する心温かい多くの隣人が末日に進み出た神の王国に導かれますように、毎日毎日、一刻一刻祈り続けております。

この証のすべてをイエス・キリストの聖いみ名によりていたしました。アーメン



『われは汝の前に 道を備うべし』

名古屋支部 堀 田 徹

仏教の思想に育てられた私にとって、「安息日を憶えてこれを聖とせよ」とモーセに言われた主の戒めは大きなチャレンジでした。

教会員となってこの問題で幾度となく二者択一を迫られ「二人の主人には仕えることができない」ことを、これでもか、これでもかと知らされた私は、安息日を守るために自分で仕事を始めることに決意しました。そして仕事を始める準備のために収入のないまま走りまわりました。妻と子供、それに私の母の生活も自分の双肩にかかっていました。兄弟姉妹の助けと、なけなしの金をはたいて小さな仕事場をつくり、電気の自動オーブンを備え、かつて一度も経験したこともない自然食品のパン屋になったのでした。

電気設計からパン屋に!イースト菌など見たこともない私にうまくペンが焼けるはずはありませんでした。白い粉にまみれて、苦心惨胆した挙句、でき上がったのは、化物のようなパン、蜂の巣のように孔だらけのパン、真黒に炭のようになったこげたパン。そんなパンが一度にドサッとオーブンから顔を出すと前途は全く真暗に思えました。そんなとき、「あなた、焦らないで!火敗しても当り前のお仕事だから、だって一度も経験のないあなたですもの。でも、あなたならきっとできると思うわ」と優しく慰め、落胆しかかっていた傷口をいやしてくれた妻。この妻の愛を、私は忘れることができません。支部長は私の家を訪れて石のようなパンを「僕はこの固いのが好きだ」と言ってくれたのを忘れることができません。今もペンを走らせながら人々のこうした愛にとめどもなく流れ落ちる涙を禁じ得ません。

こうして、私のパンは、お店に並び、お客様がはじめて 手に取り、お金を払って下さったときの喜び、私のパンが売 れたときの喜びは到底表現できるものではありません。 ちょうどこの頃、支部の教会堂の建築が追い込みになって おり、ある日支部長から電話で少し資金が不足しているこ とを告げられました。しかし、私の家にはそのとき、もう お金がありませんでした。やがて3ヵ月後に生まれ来る子 のために用意したお産の費用を除いては……。妻との相談 の結果は、このお産の準備金を建築資金にしようというこ とになり、すぐに銀行に行き支部長のところにそのお金を 持って行きました。それから3ヵ月後、神のみもとから霊 の子は肉体を宿って、予定通りクリスマスの次の日に無事 にやって参りました。不思議なことに、一銭もないはずの 私の家にはあの日納めた建築資金のおよそ2倍以上のお金 があり、妻のお産の費用に不足するどころかなお余りある 程でした。「もし、汝らわが命令を守らばわれは汝の前に 道を備うべし……かくて、汝らは導く者われなることを知 るなり。 (Iニーファイ17:13) かくて私と妻は導く方が 主であることを身をもって知ったのであります。

主は生きたもうことを証します。「安息日を憶えてこれを 聖とせよ。」まさにこれは生きたもう主の戒であります。 イ エスがキリストであり、ジョセフ・スミスは真の予言者で ありいつの日か日の栄の王国になるであろうこの地上にあ って、現在、慈しみ深いスペンサー・W・キンボール大管 長は主に召された予言者であることを証します。イエス・ キリストのみ名によって。アーメン。



神様は、人々を改宗させるためにあらゆる方法を備えていてくださいます。

私が初めてこの教会の名を知ったのは、3年前の7月で した。その頃の私は非常に家庭の愛に飢えていました。ふた りの母に異常な死なれ方をし、いつも口論の絶えない家庭 に育った私は、常に暖かい何かを求めていました。そして 心の中には自然に理想の家庭を描くようになっていました。 そうしているうちに私は、皆さんもご存知のオズモンドさ ん一家をテレビや雑誌でよく知るようになり、彼らの中に 暖かい愛を見出し、いつしか彼らは私の理想の家庭、心 の拠り所となりました。あるときある雑誌の彼らについて の記事の中で、「彼らはモルモン教徒で、カフェイン、アル コールを含む飲み物およびコーラを飲まない」というのを 見つけました。私はどこかで聞き覚えのある宗教だなとぼ んやり感じました。しかし、私はそれまでに、一度もその 名を聞いたことはなかったはずです。私はその記事を読ん で「あのすばらしい家族が守っていることなら私も……」、 と早速翌日からみんな絶ってしまいました。それまで茶の みばあさんと言われるほど好きだったお茶もコーヒーもピ ッタリとやめました。友達は単純だと笑いましたが、私はそ のとき単純であってよかったと今はそう思っています。

それからしばらくたった10月のある日、ひとりの友達が 英会話を無料で教える所があるので行かないかと誘いまし た。私は英語は好きでしたし、無料と聞いて飛びつきまし た。初めて出席して、それがモルモン教会によるものであ ると知り、飛びあがらんばかりでした。その日はちょうど 木曜日でコスチュームパーティーが行なわれました。それ からは気乗りしない友達をむりに引っぱって、またひとり 残ってでも、MIAに参加しました。そこには私の求めて いる暖かさがあったからです。そうした3月の末、私はふ としたきっかけで、初めて日曜学校に集い、そこで教会の レッスンがあることを知りました。私は宣教師にレッスン を受けたいと言いましたが、祖母の大反対にあって、長老 たちもなかなか引き受けてくださいませんでした。それで もしつこく頼んでいる内に父が許可してくれました。それ からはトントン拍子です。ちょうど春休みで自由に時間の 都合がつきましたし、早くバプテスマを受けたかったので 毎日レッスンを受けました。そして知恵の言葉のレッスン の日、長老たちはいつもより少しゆっくりと「私達の教会で は知恵の言葉といって……。」と話し始められました。私が、 「ああ、それなら8ヵ月前から守っていますよ」と話したとき の宣教師たちの驚いた顔といったらありませんでした。「ど のようにして知りましたか、なぜ守りますか」と目をぱち くりさせて尋ねられるので、「実は私はオズモンドさん一 家を尊敬していて、彼らのようになりたいんです。彼らが 守っている戒めだと知って私も守っています」と答えます と、「会わせてあげたい」とおっしゃいました。そして彼 らが4月7日に福岡に来ると話すと、すぐに伝道部長さん に電話なさいました。そして私はふたりに連れられて初めて 福岡支部を訪れ渡辺伝道部長に会い、オズモンドさんに紹 介して頂きました。公演の後でオズモンド夫人が私を抱き しめて「愛しています」とおっしゃったことはいつまでも 忘れられません。

その数日後の4月11日にバプテスマを受けてからもう2年、今では弟と妹と兄弟3人で集会に出席しています。彼らもバプテスマを受けることができました。

私が暖かい家庭に飢えるような環境に育ったことも、オズモンドさんを知ったのも、英語が好きだったのも決して偶然ではなかったと思います。己が光を輝かすことによって私に福音を知る機会を与えてくださった一家に感謝しています。私の改宗は本当に神の手によってなされたことを証します。そして同様に神様は世の多くの人々を導くためにあらゆる道を備えて、手を差し伸べていらっしゃいます。どうぞその言葉に聞き従ってください。心より、神に感謝し、また、その生きたもうことを証します。アーメン。

1975年 3 月20日発行(毎月 1 回20日発行) 第19巻第 3 号昭和42年12月18日第 3 種郵便物認可

聖徒の道